

5. 地域別構想

5.1 地域別構想の概要

安芸市都市計画マスタープランは、全体構想と地域別構想から構成されます。地域別構想は地域独自の課題に対応した都市づくりの方針を定めます。

5.1.1 地域別構想とは

安芸市都市計画マスタープランの全体構想は、安芸市総合計画（前期基本計画）2016 が目指す将来都市像を踏まえ、目指すべき都市像とその実現のための主要課題及び整備方針を定めています。

地域別構想は全体構想を踏まえ、あるべき市街地像や地域像及び実施されるべき施策を地域別に定めます。

策定にあたっては、平成 30 年度に実施した市民ワークショップで出された課題や、地域の将来像及び実現するための方策を踏まえて検討します。

策定後、安芸市（行政）は土地利用の検討、都市施設の整備等について検討します。また、市民（住民、自治会、各種まちづくり組織、企業等）は行政と協力して、地域資源等を活かした地域づくり活動を進めることとなります。

5.1.2 地域別構想の概要と地域区分

(1) 地域別構想の概要について

地域別構想は、行政計画とともに協働による市民参加の計画として策定し、今後の地域づくり計画において市民の意見が柔軟に反映できるような構想を目指します。

《地域別構想の概要》

○目標年度：全体構想の目標年度

- ・おおむね 20 年後（令和 22 年／2040 年）の都市の姿を展望しつつ、10 年程度（令和 12 年／2030 年）の期間の目標を定めます。

○事業主体：行政及び市民（住民、自治会、各種まちづくり組織、企業等）

○役割：

- ・行政 都市計画制度の運用（土地利用、都市施設の検討）、基盤整備、情報発信等
- ・市民 地域の計画づくりやルールづくり（商店街の活性化や景観形成等）

(2) 地域区分について

地域区分は、生活圏域（丁町界、小・中学校区、地形地物）やこれまでのまちづくり活動の区分を基本とし、以下のように設定します。

表 5-1 地域区分

地域区分	対象地区名
①安芸町地域	港町 1 丁目・2 丁目、矢ノ丸 1 丁目・2 丁目・3 丁目・4 丁目、本町 1 丁目・2 丁目・3 丁目・4 丁目・5 丁目、東浜、花園町、日ノ出町、久世町、幸町、庄之芝町、宝永町、染井町、寿町、清和町、千歳町、津久茂町、西浜、黒鳥、黒鳥植野、桜ヶ丘町
②土居・僧津、井ノ口、川北乙地域	土居、僧津、井ノ口、川北乙
③伊尾木、下山、川北甲地域	伊尾木、下山、川北甲
④穴内、赤野地域	穴内、赤野
⑤東川地域	大井、黒瀬、古井、島、奈比賀、入河内、別役
⑥畑山・栃ノ木・尾川地域	安芸ノ川、尾川、小谷、畑山、舞川、栃ノ木

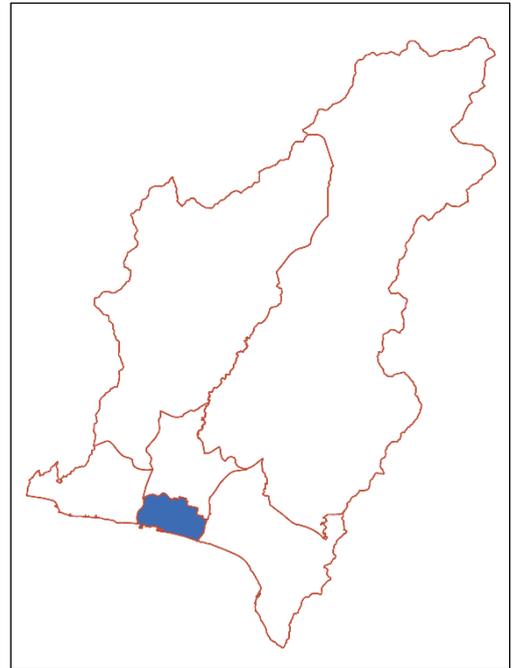


図 5-1 地域区分図

5.2 安芸町地域

〔1〕地域の概要

地域面積	約 524ha（図上計測）
人口	6,851 人
世帯数	3,249 世帯
人口密度	約 13.1 人/ha
高齢化率	23.4%
※人口・世帯数：平成 27 年度国勢調査、世帯数は総世帯数 ※人口密度：地域の居住人口/地域面積により目安として算出 （面積は可住地面積ではない）	



安芸町地域は、安芸平野の中央・海岸部にあたります。東部は安芸川、西部は西浜の山地部、南部は海岸部、北部は土居・僧津、井ノ口、川北乙地域の田園地域に隣接します。

安芸町地域の人口は 6,851 人であり、6 地域の中で最も多く、市全体の約 39.0%を占めます。高齢化率は最も低く、約 23.4%であり、安芸市では最も若い方々の多い地域となります。（市平均高齢化率 24.8%）

地域全域が都市計画区域にあたり、東部圏域内の「圏域拠点」及び安芸市の経済文化の中心地となる中心市街地を形成しています。

なお、地域の平地部のほぼ全域が津波浸水想定浸水深 2m 以上の区域となっています。

【資源・長所】（平成 30 年度市民ワークショップより）

- ・四季のある快適な暮らしの場（海山川が近い、自然とのふれあい、子どもが安心して遊べる環境）
- ・自転車でもわることのできる小さくまとまったまち（商店街、病院、学校、保育所、託児所、小学校などの人が集まる拠点が市街地に集積、徒歩、自転車で移動ができる）
- ・にぎわいの場が集積（公民館、喫茶店、飲み屋が多いことが特徴）
- ・利便性が高く公共交通のカバーエリアが広い地域（駅前駐車場や駐輪場が無料）

【住民から見た課題】（平成 30 年度市民ワークショップより）

- ・今後のまちの変化への対応（市役所の移転、学校統廃合、高規格道路、交通体系の整備など）
- ・商店街の活性化（空き店舗や閉店する店の増加）
- ・高齢者の暮らしの不安（独居老人の増加、高齢者の買い物問題、家賃の高騰）
- ・防災対策（津波浸水に対する安全性、地震時のブロック塀問題、消火栓・防火水槽の不足）
- ・仕事への不満（少ない雇用、若い人・専門職の減少、地域産業への不満）

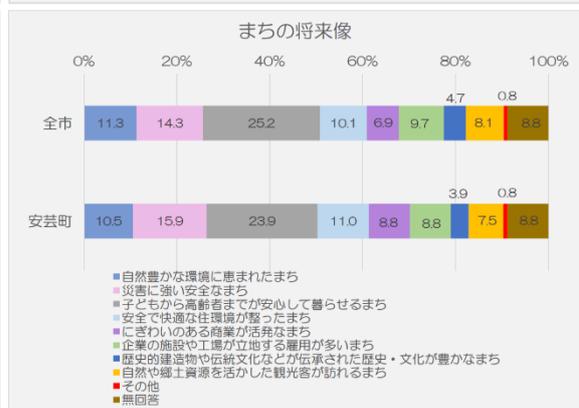
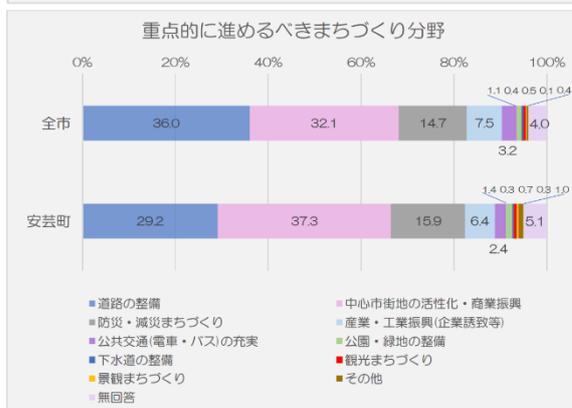
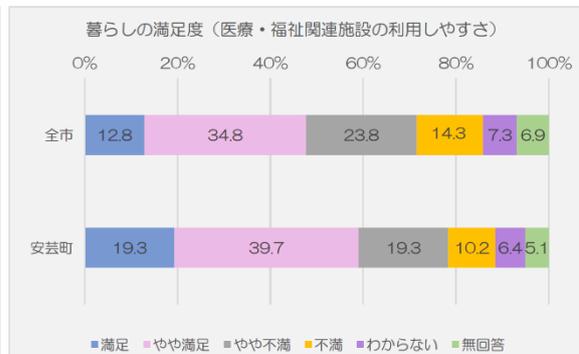
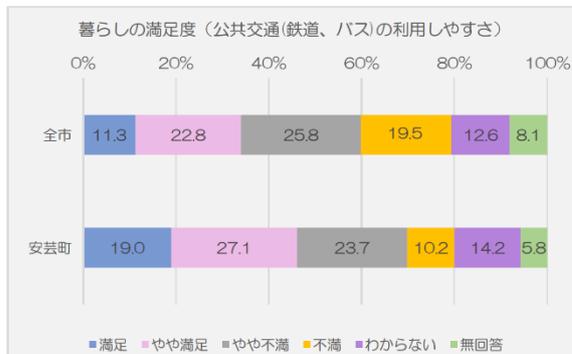
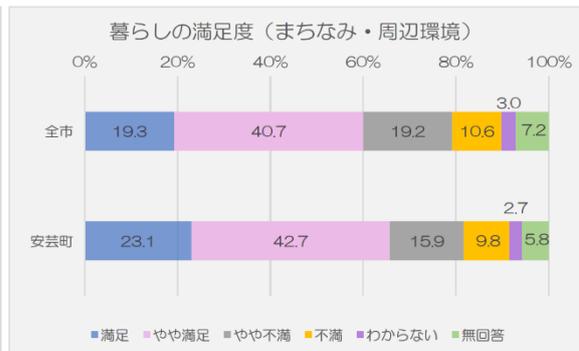
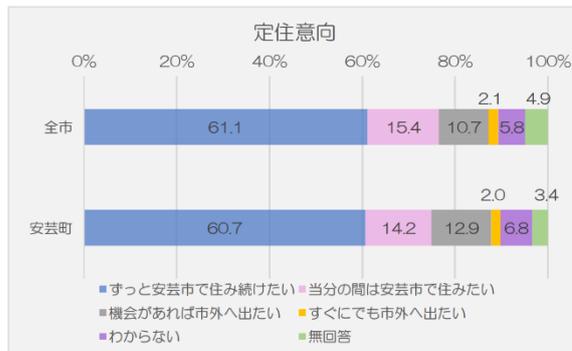
《安芸市都市計画マスタープラン策定のためのアンケート調査（平成30年度）》

【定住意向】 中心市街地のある安芸町地域は、多くの方が定住意向（「住み続けたい」「当分の間は住みたい」74.9%）を示しています。

【暮らしの満足度】 まちなみ・周辺環境への満足度（「満足」「やや満足」）は65.8%を占め、全市（60.0%）より高くなっています。特に、暮らしに必要な都市機能である公共交通や医療・福祉関連施設の満足度は他地域と比較して高く、「満足」「やや満足」がそれぞれ46.1%（全市34.1%）と59.0%（全市47.6%）です。

【重点的に進めるべき分野】 「中心市街地の活性化・商業振興」「道路の整備」「防災・減災まちづくり」が重視されています。（各37.3%、29.2%、15.9%） 特に「中心市街地の活性化・商業振興」「防災・減災まちづくり」が全市より高くなっています。（全市各32.1%、14.7%）

【まちの将来像】 「子どもから高齢者までが安心して暮らせるまち」「災害に強い安全なまち」「安全で快適な住環境が整ったまち」が上位を占めます。（各23.9%、15.9%、11.0%）



〔2〕地域の主要課題と将来像

《地域の主要課題》

○変貌するまちへの対応

- ・安芸町地域では、市役所の移転、学校統廃合、高規格道路・安芸中IC（仮称）、新たな交通体系などが整備されます。今後はこれら大きな変貌に対応するまちづくりが必要となります。

○代替性のない中心地の防災

- ・安芸町地域の大部分は、津波浸水想定区域（L2）2m以上にあたります。地震・津波から「命を守る」取組を図るとともに、代替性のない安芸町地域の居住や経済文化活動を守るため、地域での最良の方策を検討することが必要となります。

○中心市街地の魅力やにぎわいの消失

- ・中心市街地では、空き店舗や閉店する店が増加し、商店街としての魅力も減少しつつあります。東部圏域拠点や安芸市の中心地として、にぎわいや活力を取り戻す必要があります。

○まちなかにおける暮らしの不安

- ・高齢者、特に独居老人の増加問題及び買い物問題、家賃の高騰、空き家の増加など、まちなかでの暮らしの不安が増加しています。子どもから子育て世代、高齢者、障がい者など、地域に暮らすあらゆる市民に対応する快適な居住環境の検討が必要となります。

《地域の将来像》

《地域の将来像》

暮らしと魅力の中心拠点

- ・健康で安全な暮らしと 新たな魅力・活力のある
安芸市中心拠点

安芸駅周辺



《地域づくりのテーマ》（平成30年度市民ワークショップより）

- ・自然の美しい誇りある郷土づくり
- ・市民を市民が応援するまちづくり
- ・教育のまちとしてのまちづくり
- ・防災・減災の20年先をみた事前復興のまちづくり



[3] 地域づくりの方針と分野別方針

《地域づくりの方針》

○魅力と活力を生み出す新たな拠点と周遊型ネットワークの形成

- ・市役所の移転、学校統廃合、地域高規格道路・安芸中IC（仮称）、新たな交通体系の整備を活かし、安芸市の中心部として新たな活力と魅力の創出を図ります。

○命を守る取組と強靱なまちづくり

- ・地震・津波などの自然災害に対する防災機能のさらなる強化や避難場所、避難できる通路の確保を図り、災害に強く安全に暮らせるまちづくりを図ります。

○圏域拠点・安芸市の中心地としてのにぎわいのある中心市街地の形成

- ・商業・業務機能の維持・集約を図るとともに、交通や生活利便性の高いまちなかへの居住の維持及び新たな居住者の受け入れ環境を整備し、にぎわいのある中心市街地を形成します。

○まちなかにおける快適な暮らしの確保

- ・介護・福祉、子育て支援、医療・救急等の都市機能の維持、市民や観光客の憩いや健康づくり、地域コミュニティの場の整備などを進め、定住者や移住者が安心して子育てができ、健康に暮らせる住環境を形成します。

《地域の実現方策のアイデア》（平成30年度市民ワークショップより）

- ・道路の充実（防災・まちの経済活動・生活のための道路を充実）
- ・安芸市の自然や今ある施設を使った名所づくり（観光客に向けたホテルの充実、中高生世代の楽しめるボーリング場、安芸市民のための安芸ツアーの開催など）
- ・にぎわい・文化の拠点づくり（商業施設のリノベーション、図書館を活用した拠点づくり、市民同士のコミュニケーションの場として水浴びのできる広場・コミュニティスペース）
- ・イベントでにぎわいづくり（オーガニックをキーワードとしたイベント、商店街の建物を生かしたイベント、流木アートや安芸の歴史イベント、従来の全国商い甲子園など）
- ・空き家・空き地の活用（暫定活用を検討）
- ・高齢者にやさしいまちづくり（本町通りでの高齢者の買物が多少不便、高齢者対策が必要）

《分野別方針》

【新たな都市計画】

①新たな都市拠点の形成

- 都市拠点である「県立あき総合病院・安芸タイガース球場（西八幡公園）」において、土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線「あき総合病院前駅（仮称）」の整備を促進します。
- 「安芸中IC（仮称）周辺」におけるIC南側は、広域交通の強みを活用した新たな流通業務系、住居系、観光交流などの土地利用について検討し、IC北側は優良農地として保全します。これにより、自然と都市の複合的な機能が調和し、新たに活力を生み出す市街地を形成します。

《主要施策》

○「あき総合病院前駅（仮称）」の整備促進

- 土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線の新駅としてのあき総合病院前駅（仮称）の整備の促進

○「安芸中IC（仮称）周辺」土地利用の位置づけ

- IC南側における流通業務系、住居系、観光交流などの土地利用の検討
- IC北側における優良農地の保全

②新たなネットワーク形成と沿道土地利用

- 安芸町地域の中央部を縦断する「（県道）安芸中インター線」の早期整備を促進します。また「中央線」「海岸線」「あき病院球場線」及び「（安芸中IC（仮称）～県立あき総合病院）への新ルート」により、安芸市中心部の環状線を形成します。これにより、安芸市を牽引する社会経済活動や市民の健康で元気な暮らしを支えるとともに、観光交流、防災機能を強化します。
- 新設道路の沿道土地利用は、それぞれの立地特性に応じ、計画的に活用します。

《主要施策》

○新設道路による環状線の整備と広域ネットワーク

- 高規格道路等と安芸中IC（仮称）の整備促進による広域ネットワークの形成
- 「（県道）安芸中インター線」「中央線」「海岸線」「あき病院球場線」「（安芸中IC（仮称）～県立あき総合病院）への新ルート」の整備による安芸市中心部の環状線の形成

○新設道路の沿道土地利用の検討

- 「（県道）安芸中インター線」「中央線」沿道における観光客や商店街の活性化に向けた土地利用の検討
- 「あき病院球場線」沿道における周辺緑地の保全
- 「海岸線」沿道における安芸市の魅力向上に向けた土地利用
- 「（安芸中IC（仮称）～県立あき総合病院）への新ルート」沿道における周辺農地との調和や景観に配慮した土地利用

③公共施設跡地の有効利用

- ・市役所跡地及び学校統合によって生じる学校跡地の有効活用について検討します。
市役所跡地や学校跡地は、にぎわいづくりや市街地の魅力づくりのための土地利用について検討します。

《主要施策》

○「（現行）市役所」の跡地利用

- ・にぎわいづくりなどによる市街地の活性化を図るための土地利用の検討

○「安芸中学校」「県立安芸中高等学校」の跡地利用

- ・安芸中IC（仮称）を結ぶ地域の魅力づくりのための拠点としての土地利用の検討

【都市防災】

- ・狭あい道路の拡幅などによる避難できる通路の確保や津波避難場所の維持・管理、水害リスク低減のための検討、漁港、海岸の自然災害についての防災対策等、地震・津波などの様々な自然災害に対する複合的な取組を推進します。
- ・自主防災組織の防災学習会などにより、防災意識の向上を図ります。

《主要施策》

○新設道路を活用した緊急輸送道路ネットワークの強化

- ・新設道路を活用した緊急輸送道路網の早期整備
- ・安芸橋、鉄道等の耐震化及び緊急輸送道路沿道の建築物の耐震・耐火性の向上

○密集市街地における防災・減災対策

- ・安芸市民会館、安芸市民図書館の更新・移転についての検討
- ・木造密集地区における建築物の不燃化・耐震化、老朽家屋の解消
- ・狭あい道路の拡幅による緊急車両の通行ができる生活道路の整備

○避難場所・避難できる通路のさらなる整備

- ・高齢者、障がい者等の災害弱者のための道路整備の推進
- ・避難困難区域の再検討によるさらなる安全性の向上

○河川・内水氾濫の災害対策

- ・安芸川、江ノ川等の河川・内水氾濫対策

○地域の防火・消防体制の強化（消防）

- ・耐震性防火水槽や消火栓の計画的な配置と整備
- ・消防団等の消火活動の拠点となる消防屯舎の整備の推進

○防災・減災意識の向上の強化

- ・地域で防災訓練、自主防災活動の実施による防災意識の向上

○災害予防対策

- ・土砂災害警戒区域等、土砂災害（がけ崩れ、土石流、地すべり）の危険箇所の把握、土砂災害対策（避難情報伝達体制の構築、建築規制等）などの推進

【土地利用】

- ・ 東部圏域の圏域拠点として土地の有効利用を促進し、商店街等の活性化を推進するとともに、まちなかにおける快適な生活環境の提供のための土地利用を進めます。

《主要施策》

○都市的土地利用における住居系ゾーン

- ・ 中心市街地や駅周辺における介護・福祉、子育て支援、医療・救急等の土地利用の検討
- ・ 沿岸部における市民や観光客の憩いと健康づくりの場や地域コミュニティの形成の場としての土地利用の検討
- ・ 若者向け定住対策として、空き家バンクや民間活力等の活用、桐ヶ内団地の建替え

○商業・業務系ゾーン

- ・ 中心市街地における地域の顔となる商業地としての魅力と特色ある商業空間の形成
- ・ 安芸駅周辺における中心市街地と連続した商業地としての土地利用
- ・ 空き地の活用・空き店舗の改修、起業や後継者の支援、コミュニティビジネス・交流支援、にぎわいづくりのイベント、商店街の憩いの場等の確保などによる観光客や学生等を商業地に呼び込む魅力づくり

○工業系ゾーン

- ・ 植野工業団地の維持・充実

○農業・漁業系ゾーン

- ・ 優良農地の保全と農業生産基盤の維持・充実
- ・ 漁港機能の維持・充実

○自然環境系ゾーン

- ・ 市街地の良好な環境を支える安芸川、江ノ川、西部のまとまった緑地の保全

【都市施設等】

①市街地整備

- ・ 複合的な安全対策を講ずることにより、安全・安心な居住地の形成や機能的な商業・業務系施設の誘導を進めます。

《主要施策》

○住居系市街地の整備

- ・ 中心市街地の低・未利用地における土地利用転換の検討及び有効活用
- ・ 津波浸水想定区域内に位置する中心市街地での用途の混在や敷地の細分化の防止、耐震性がなく耐用年数が超過している住宅の用途の廃止など、災害に強い居住環境の検討
- ・ 木造の密集市街地等における狭あい道路の解消の推進、建替え時の建物の堅牢化、津波からの避難場所となる中高層建築物への誘導等（地区計画の導入を検討）
- ・ 元気な高齢者が大勢で暮らすことのできる場所などの生活・居住対策についての検討

○商業・業務系市街地の整備

- ・安芸駅周辺における土地の高度利用及び都市機能の集約などの推進
- ・安芸市商店街である元町振興会、安芸本町商店街振興組合の活性化に向けた支援
- ・県立あき総合病院・安芸タイガース球場（西八幡公園）における防災拠点及び観光交流拠点としての機能強化

○工業系市街地の整備

- ・植野工業団地における現在の機能の維持・向上の推進
- ・工業団地内の緑化の推奨
- ・新設道路・安芸中IC（仮称）へのアクセス性の向上

○農業・漁業系施設の整備

- ・ほ場整備及び農業生産基盤の維持等、耕作放棄地の抑制
- ・利用者や生産者の就労環境の改善、安全性の向上など漁港機能の増進

②都市交通

- ・市街地部の渋滞緩和に向け、安全で円滑な交通網の形成を図ります。
- ・鉄道や生活路線バスなどの公共交通の充実を図ります。
- ・人にやさしい生活道路、歩いて楽しい通学路、自転車・歩行者の利用環境を充実します。

《主要施策》

○総合的な交通体系の整備

- ・高知東部自動車道・阿南安芸自動車道及び安芸中IC（仮称）の整備促進
- ・都市間や拠点間を連絡する幹線道路の渋滞緩和、安全性の向上のための拡幅改良の推進
- ・市街地内の道路の充実として、避難できる通路及び緊急車両の通行機能の確保
- ・交差点や通学路等の外灯やカーブミラーの整備等による安全な道路空間の確保
- ・都市計画道路の位置づけや整備の優先順位等についての見直し検討

○公共交通サービスの充実

- ・自動車、公共交通、歩行者・自転車等に対応できる安全な交通環境の整備
- ・安芸駅周辺地域の駐車場整備やサイクル&ライド駐輪場の整備の推進
- ・バスネットワークやデマンドタクシーなどの公共交通手段の充実

○人にやさしい道路づくり

- ・生活道路・通学路、自転車・歩行者道の安全性・利便性・快適性の向上
- ・人にやさしい道路・健康づくりの路の検討
- ・ユニバーサルデザインの導入

③生活環境

- ・上下水道などのインフラ系公共施設について、計画的な更新や適正な維持管理を進め、将来にわたり持続可能な公共サービスを提供します。

《主要施策》

○上水道の計画的更新と適正な維持管理

- ・上水道の計画的更新
- ・水道施設の長寿命化等の対策及び適切な維持管理を推進

○供給処理施設の整備

- ・旧火葬場（西浜）跡地の新たな墓地として整備と適切な運営

○環境保全対策の推進

- ・省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入として電気自動車、低燃費車の推進
- ・環境教育として広報の推進や社会見学等の場の活用
- ・環境美化としてごみ減量化・資源化、不法投棄の防止などの啓発活動の推進、市民・地域との連携による環境美化の推進

④公園・緑地

- ・安芸地域における海、山、川などの自然環境や拠点となる公園・緑地の保全・活用、並びに防災や環境面でも重要な役割を持つ緑としての農地の保全を図ります。

《主要施策》

○自然環境の保全

- ・安芸川、江ノ川などの河川や海岸等の水質や生態系の保全、及び安芸町地域西側の山地の生態系の保全
- ・安芸川、江ノ川などの多自然川づくりの促進
- ・手結住吉県立自然公園（浄貞寺）の保護
- ・安芸市の緑の骨格としての農地の保全



安芸市の海岸

○都市計画公園・都市計画緑地の整備・管理

- ・朝霧公園、橋の元公園、江ノ川中公園、江ノ川上公園、安芸タイガース球場（西八幡公園）等の健全度の点検や長寿命化対策等の維持管理の推進
- ・安芸タイガース球場（西八幡公園）における周辺整備の推進
- ・中心市街地のにぎわいや活性化につながるまちなか広場の創出等についての検討

○市民、事業者との協働による公共施設や私有地内における緑化の推進

- ・都市間や拠点間を連絡する幹線道路、駅前広場、官公庁施設等の公共公益施設、工場、商店街及び住宅地等の私有地の緑化を推進
- ・都市緑地法等の諸制度など様々な施策の活用の検討
- ・緑地保全や都市緑化の推進に向けた市民参加の推進体制づくり
- ・市民意識の向上に向けた緑に関する情報の提供、緑化関連イベントの実施等の推進

⑤都市景観・観光

- 駅周辺や中心市街地等において、個性とにぎわいのある景観形成を進めます。
- 建築物・工作物・屋外広告物等の景観誘導について、効果的な規制・誘導方策を検討します。

《主要施策》

○玄関口としてふさわしい都市景観の形成

- 安芸駅、安芸中IC（仮称）周辺、中心市街地、県立あき総合病院・安芸タイガース球場（西八幡公園）などの都市拠点及び都市間や拠点間を連絡する幹線道路沿道の玄関口としてふさわしい顔づくり
- 個性ある建築群（水切り瓦のある蔵）が残る景観などの安芸市らしいまちなみ景観の保全
- 民地の生け垣化・敷地内緑化、建物の意匠の工夫等の推進による良好な景観の育成

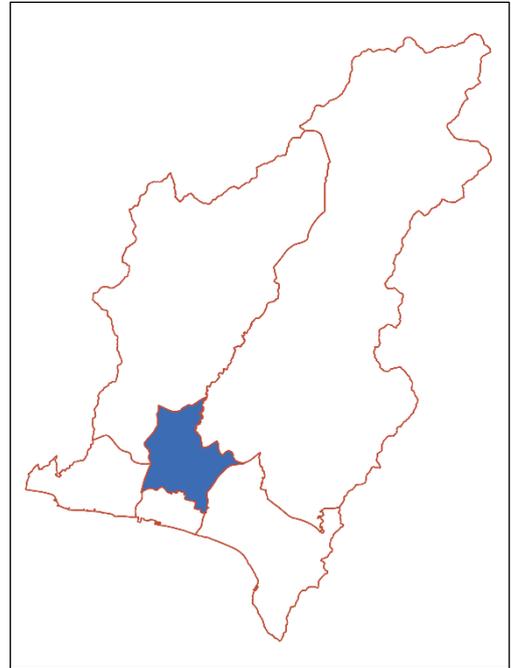
○観光交流のための環境整備

- 駐車場の充実、アクセス道路の整備による観光交流拠点の整備
- 看板・サインの充実により、誘導しやすく、立ち寄りやすい環境整備
- 特産物を活用した地域づくりの場、観光農園等の市民や観光客との交流の場づくりなどによる農業や漁業を活かした体験型・交流型観光の推進
- 全国、全県のみならず訪日外国人を取り込むインバウンド対策についての検討
- 様々な祭りやイベント等の観光情報の発信・周知

5.3 土居・僧津、井ノ口、川北乙地域

〔1〕地域の概要

地域面積	約 1,386ha（図上計測）
人口	4,572 人
世帯数	1,873 世帯
人口密度	約 3.3 人/ha
高齢化率	25.3%
※人口・世帯数：平成 27 年度国勢調査、世帯数は総世帯数 ※人口密度：地域の居住人口／地域面積により目安として算出 （面積は可住地面積ではない）	



土居・僧津、井ノ口、川北乙地域は、安芸平野のほぼ中央に位置し、川北乙に安芸川が流下、東・西・北の 3 方を山地に囲まれた田園地域です。

地域の人口は 4,572 人であり、6 地域の中で 2 番目に多く、市全体の約 26.0%を占めます。高齢化率は 6 地域の中で 3 番目にあたる 25.3%であり、安芸市平均高齢化率 24.8%より、やや高い地域となります。

地域全域が都市計画区域外にあたる農村集落の分布する地域です。古くは地域の政治・文化の中心地として栄え、安芸城跡、土居廓中などの歴史あるまちなみを有し、多くの歴史的・文化的資源が立地します。また、安芸市の主要産業である広大な農地が広がる地域です。

なお、安芸町地域との北側隣接部付近から中之橋付近までの安芸川沿川が津波浸水想定浸水深 2m 以上の区域となっています。

【資源・長所】（平成 30 年度市民ワークショップより）

- 中心市街地へのアクセスは良好
- 歴史ある古い街並みや公園が立地（土居廓中伝統的建造物群保存地区、内原野公園、安芸広域公園、庭園などがあり、観光や歴史資源が豊富）

【住民から見た課題】（平成 30 年度市民ワークショップより）

- 細い道が心配（集落の中は狭あい道路、緊急車両の通行が困難、津波対策）
- 人が集まる仕掛けが不足（高速道路で通過点にならない工夫、トイレ、ゴミ置場、市民の活動の場などが少ない）
- もてなしの場としての観光地の整備不足（土居廓中、城山、駐車場などの場所がわかりにくい）
- 職場が不足（農家の後継者不足、港や工場などの職場が少ない）

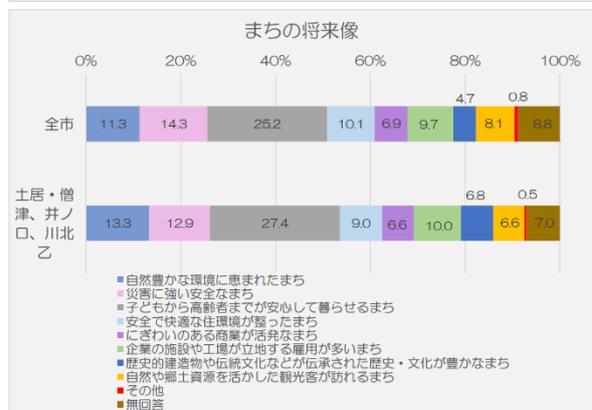
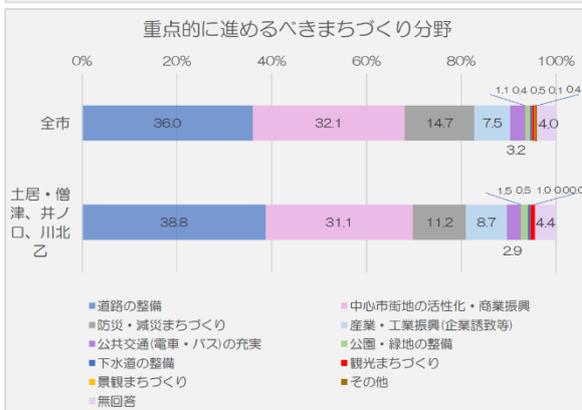
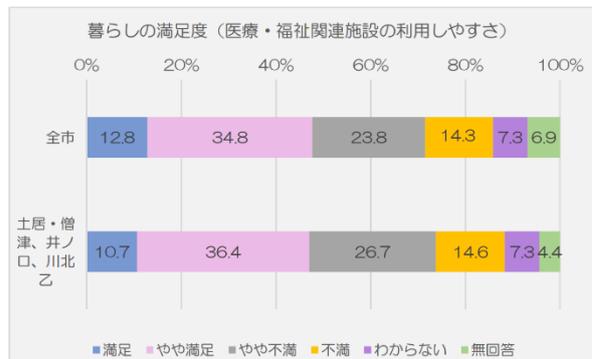
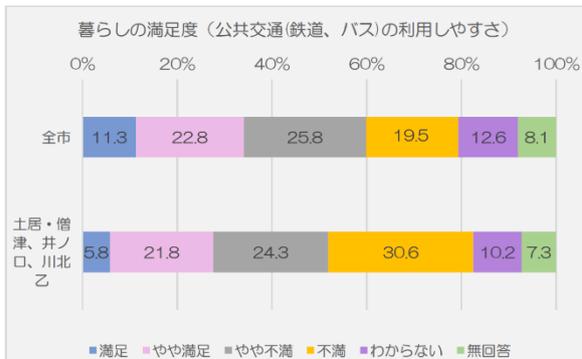
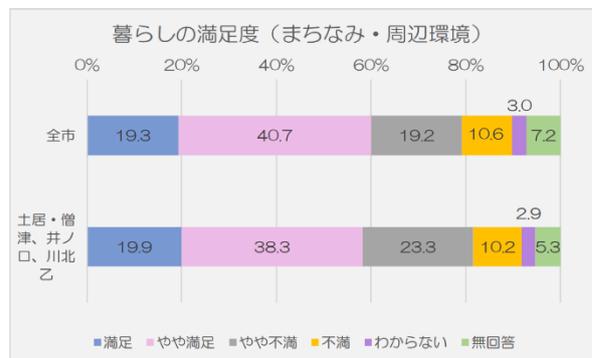
《安芸市都市計画マスタープラン策定のためのアンケート調査（平成30年度）》

【定住意向】定住意向（「住み続けたい」「当分の間は住みたい」）の方が84.5%を示し、安芸市では東川地域の100%に次いで高いポイントとなっています。（全市76.5%）

【暮らしの満足度】暮らしの満足度（「まちなみ・周辺環境」「公共交通の利用のしやすさ」「医療福祉関連施設の利用のしやすさ」のうち、「満足」「やや満足」）は、それぞれ58.2%、27.6%、47.1%であり、全市（各60.0%、34.1%、47.6%）より低くなっています。

【重点的に進めるべき分野】「道路の整備」「中心市街地の活性化・商業振興」「防災・減災まちづくり」が重視されています。（各38.8%、31.1%、11.2%）

【まちの将来像】「子どもから高齢者までが安心して暮らせるまち」「自然豊かな環境に恵まれたまち」「災害に強い安全なまち」が上位を占めます。（各27.4%、13.3%、12.9%）



〔2〕地域の主要課題と将来像

《地域の主要課題》

○新施設の整備等に伴う無秩序な開発への懸念

- ・土居・僧津、井ノ口、川北乙地域は、市役所の移転、市立新統合中学校の移転、（県道）安芸中インター線の整備が行われます。今後のこれらの整備に伴い、施設周辺での無秩序な土地利用が懸念されます。

○集落内の道路は狭小、公共交通はやや脆弱

- ・地域では、古くより山裾に集落が発達し、安芸川右岸に広がる土居・僧津には屋敷地などが発達しています。これらの集落内の道路は昔ながらの狭い道路となっています。これにより、日常交通や緊急車両時の車両通行に困難が生じ、今後の対応が必要となっています。

○医療・福祉施設の地域内格差

- ・定住意向が比較的高くなっています。また、暮らしの満足度の「まちなみ・周辺環境」「公共交通の利用しやすさ」はやや高く、「医療福祉関連施設の利用のしやすさ」はやや低くなっています。

○観光資源は多いが、活用が不十分

- ・古くより政治・文化の中心地として栄えた地域であり、歴史文化資源が多く立地します。安芸市を代表する観光地域となっている反面、各施設の場所のわかりにくさや駐車場の不足など、観光インフラの整備の遅れが懸念されます。

○災害への不安

- ・安芸川沿川や安芸町地域付近は、津波浸水想定区域（L2）2m以上の地域があります。地震・津波や内水氾濫等の自然災害への取組が必要です。

《地域の将来像》

《地域の将来像》

歴史と今を感じるふるさと安芸

- ・安芸市を代表する農と歴史と文化の観光交流地域

野良時計



《地域づくりのテーマ》（平成30年度市民ワークショップより）

- ・市役所、小中学校周辺のまちづくりを重視
- ・観光の地域づくり
- ・歴史の重みのあるまちづくり
- ・安全なまちづくり
- ・東高知の拠点として、公共交通の充実・拠点の連携



[3] 地域づくりの方針と分野別方針

《地域づくりの方針》

○環境の変化に対応する適切な土地利用の検討

- 新たに整備される市役所、市立新統合中学校の周辺や（県道）安芸中インター線沿道周辺への無秩序な開発を抑制し、周辺の優良農地と調和する適切な土地利用を推進します。
- これら周辺土地利用を適切に活用するため、都市計画区域の見直しを検討し、農地と調和したまちづくりについて検討を進めます。

○集落内の交通環境の改善

- 集落内の狭あい道路について、適所・適切な拡幅を検討し、日常生活や緊急時の安全・安心な交通環境を形成します。

○交通ネットワークの強化による暮らしの安心の確保

- 安芸川左右岸により隔てられる地域内の交通ネットワークの強化について検討し、医療施設や商業施設等の日常生活機能の向上を図ります。

○観光地間をわかりやすく楽しく結ぶ観光ルートの整備

- 地域内に点在する観光施設への必要に応じたアクセス道路の拡幅、駐車場の整備、サインの設置や、観光地間をわかりやすく結ぶ観光ルートの設定などにより、気軽に楽しめる観光地づくりを進めます。

○自然災害から暮らしを守る取組による安全・安心な地域づくりの推進

- 安芸町地域近隣、安芸川沿川地域、土砂災害等の危険性のある地域について、地震・津波や洪水、土砂災害等の自然災害に対する複合的な取組を推進します。

《地域の実現方策のアイデア》（平成30年度市民ワークショップより）

- 新たな拠点を生かしたまちづくり（移転後の市役所を活用した支所の整備、県の庁舎などを利用した防災施設、IC、駅の拠点化・ハイウェイオアシスの新設、小中学校統合による拠点化、駐車場・案内所づくり（食堂、トイレ、案内所、土産物屋と観光用の駐車場の整備に活用する複合施設化）など）
- バスの充実と高齢者、障がい者にやさしいネットワークづくり（元気バスの本数の増加、安芸駅からの観光・周遊バス・観光拠点のピストンバスの充実、高齢者、障がい者のためのバリアフリー化、駐車場からの散策できるルートづくり）
- 安芸市らしい売り込みのアイデア（お遍路さんお接待所の新設、地場産品店、城の復元、展望台、城型避難所などによる城山の活用、岩崎彌太郎生家の活用など）
- 地域交流の場づくり（公園、公民館を改修して子どもや高齢者の交流の場づくり）

《分野別方針》

【新たな地域づくり】

①市役所や市立新統合中学校周辺の適切な土地利用コントロール

- 市役所や市立新統合中学校は地域の新たな拠点となります。移転地周辺は農地であることから、懸念される無秩序な開発行為等を抑制し、農地と調和した適切な土地利用について検討します。

《主要施策》

○都市計画区域の見直し

- 市役所や市立新統合中学校周辺での都市計画区域の見直し、用途指定や地区計画制度等の都市計画手法の活用を検討

○「市役所周辺」「教育拠点」及び「(県道)安芸中インター線」沿道の適切な土地利用

- 優良農地の保全の検討

②暮らしの骨格となる「(県道)安芸中インター線」の早期整備

- 市役所や市立新統合中学校周辺と中心市街地を直結し、地域交通網の骨格となる「(県道)安芸中インター線」の早期整備を促進します。
- 地域においては、暮らしを支える生活軸や観光交流、防災の骨格軸として活用します。

《主要施策》

○暮らし、観光、防災を支える新設道路の整備

- 「(県道)安芸中インター線」の整備の促進、歩いて楽しい工夫についての検討

【都市防災】

- 津波浸水想定のある区域にあたる集落では、狭あい道路の拡幅などによる避難できる通路の確保や津波避難場所の維持・管理を進めます。
- 安芸川や江ノ川沿川は、堤防や護岸の強化の促進、総合治水等による内水氾濫への対応を図ります。また、土砂災害等の危険性のある地域は、土砂災害防止への取組などにより、自然災害に強い地域づくりを進めます。
- 自主防災組織の防災学習会などにより、防災意識の向上を図ります。

《主要施策》

○緊急時に避難できる通路の確保

- 狭あい道路の改良による高齢者、障がい者等の災害弱者のための避難できる通路の確保

○洪水対策

・安芸川、江ノ川などの治水対策、総合治水等の推進

○地域の防火・消防体制の強化（消防）

- ・耐震性防火水槽や消火栓の計画的な配置と整備
- ・消防団等の消火活動の拠点となる消防屯舎の整備の推進

○防災・減災意識の向上の強化

- ・地域で防災訓練、自主防災活動の実施による防災意識の向上

○災害予防対策

- ・土砂災害警戒区域等、土砂災害（がけ崩れ、土石流、地すべり）の危険箇所の把握、土砂災害対策（避難情報伝達体制の構築、建築規制等）などの推進

【土地利用】

農業環境の継続・充実や定住者や移住者が安心して子育てができ、健康に暮らせる田園集落環境を確保します。また、空き地・空き家などの有効活用について検討します。

《主要施策》

○自然的土地利用における住居系ゾーン

- ・既存集落の住環境の充実としての多世代居住などのゆとりある居住環境の形成
- ・空き地・空き家対策の検討

○工業系ゾーン

- ・植野工業団地の維持・充実
- ・新設道路・安芸中IC（仮称）へのアクセス性の向上
- ・小規模な産業拠点としての柚子処理加工施設（移転検討中）の操業機能の充実、地場産品を活用した都市農村交流の場としての土地利用の検討

○農業系ゾーン

- ・農業生産基盤の維持・充実

○自然環境系ゾーン

- ・水源涵養としての森林の保全



地域の農業系ゾーン

【都市施設等】

①都市交通

- ・生活路線バスなどの公共交通の活用や、歩いて楽しい新たな通学路や観光地を周遊できる自転車・歩行者の利用環境を充実します。

《主要施策》

○公共交通サービスの充実

- ・地域内の交通ネットワークの強化に向けた、バスネットワークやデマンドタクシーなどの公共交通手段の充実

○人にやさしい道路づくり

- ・集落内の生活道路・農道における安全対策の充実、適所へのユニバーサルデザインの導入
- ・交差点や通学路における安全対策の充実、修景、健康増進のみちづくり

②生活環境

- ・上水道などのインフラ系公共施設について、計画的な更新や適正な維持管理を進め、将来にわたり持続可能な公共サービスを提供します。

《主要施策》

○上水道の計画的更新と適正な維持管理

- ・上水道の計画的更新
- ・水道施設の長寿命化等の対策及び適切な維持管理を推進

○環境保全対策の推進

- ・省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入としての電気自動車、低燃費車の推進
- ・環境教育としての広報の推進や、社会見学等の場の活用
- ・ごみ減量化・資源化、不法投棄の防止などの啓発活動の推進、市民・地域との連携による環境美化の推進

③公園・緑地

- ・地域を取り巻く山地・森林、川などの自然環境や広域公園、観光地などの身近な緑の保全・活用、並びに防災や環境面でも重要な役割を持つ緑としての農地の保全を図ります。

《主要施策》

○自然環境の保全

- ・地域を縦断する安芸川などの河川、安芸平野を取り巻く山地等の自然環境の保全
- ・安芸川などの多自然川づくりの促進
- ・河川の水質や生態系の保全とともに親水空間としての整備の促進
- ・緑の骨格としての農地の保全

○自然公園の保護・保全

- ・手結住吉県立自然公園である安芸城跡や土居廓中一帯の保護・保全

○都市公園の管理

- ・県立安芸広域公園の適正な維持管理の推進

○市民、事業者との協働による公共施設や民有地内における緑化の推進

- ・公民館や集会所などの身近な活動の場などの緑化の推進
- ・市民意識の向上に向けた緑に関する情報の提供、緑化関連イベントの実施等の推進

④農村景観・観光

- 安芸市を代表する農地と集落の調和する景観形成を進めます。
- 観光地の建築物・工作物・屋外広告物等の適正な誘導により、地域の良い景観づくりを引き続き進めます。

《主要施策》

○都市景観・田園景観の形成

- ふるさと景観の保全として、農地景観の保全、国選定重要伝統的建造物群保存地区（土居廓中地区）、安芸城跡、野良時計、岩崎彌太郎生家、弁天池（内原野池）（「ため池百選」農林水産省）などの歴史的景観や文化的景観の保全

○観光交流のための環境整備

- 観光交流拠点である安芸城跡・土居廓中・野良時計周辺、岩崎彌太郎生家等の歴史文化資源等における駐車場の充実、アクセス道路の整備による観光交流拠点の充実、看板・サインの充実等により、誘導しやすく、立ち寄りやすい環境整備
- 安芸市立歴史民俗資料館、安芸市立書道美術館等の文化資源、安芸広域公園等の観光交流拠点の利用促進
- 特産物を活用した地域づくりの場、観光農園の市民や観光客の交流の場づくり等の農業を活かした体験型・交流型観光の推進

[4] 地域づくりの方針図

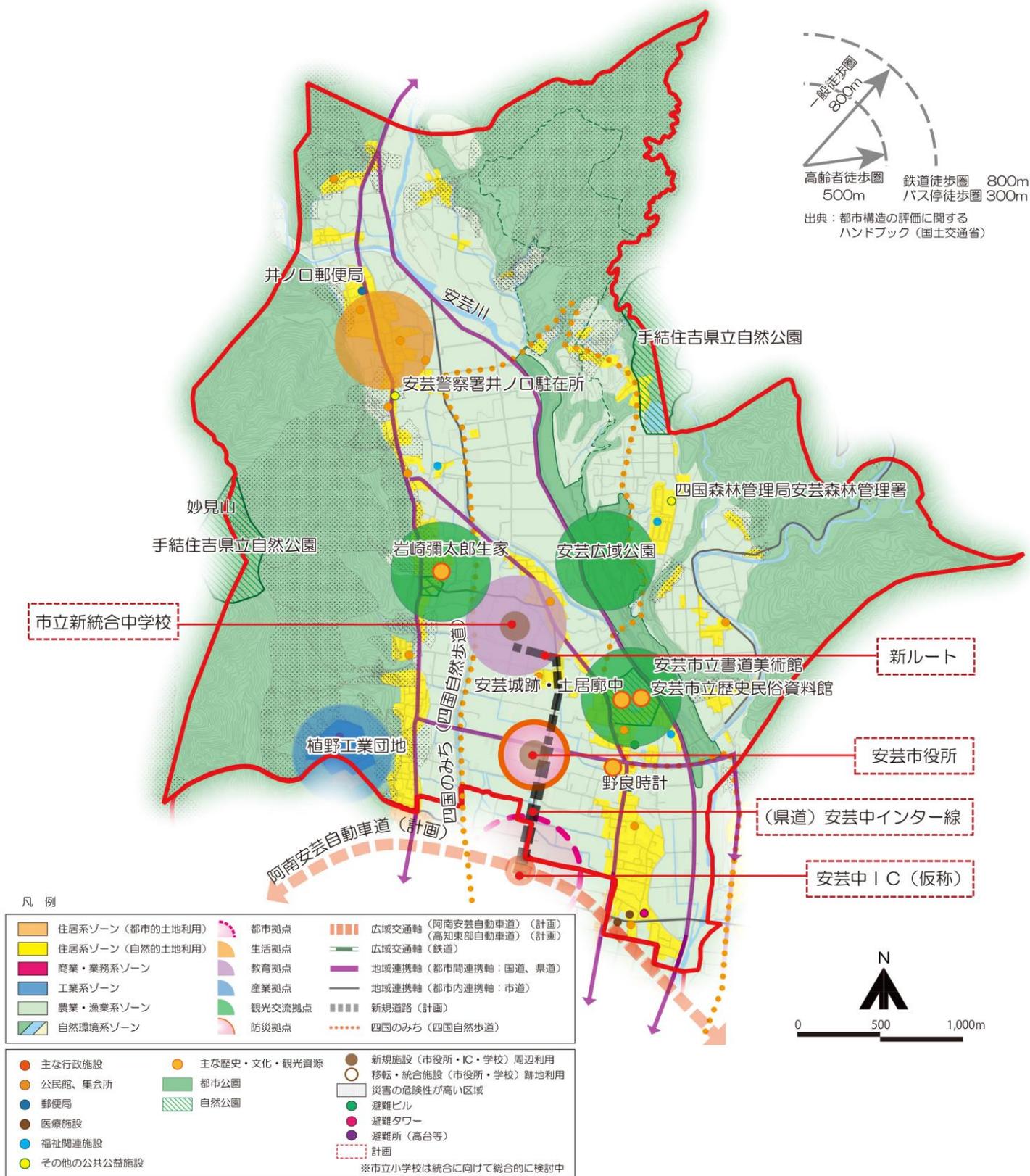
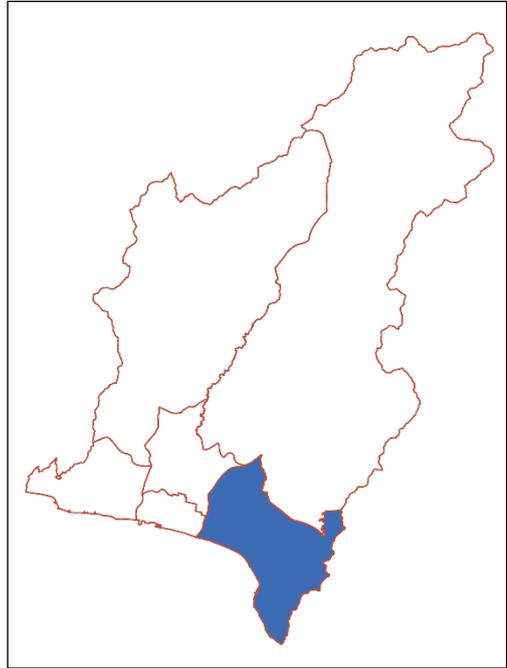


図 5-3 地域づくりの方針図（土居・僧津、井ノ口、川北乙地域）

5.4 伊尾木、下山、川北甲地域

〔1〕地域の概要

地域面積	約 2,870ha（図上計測）
人口	3,825 人
世帯数	1,551 世帯
人口密度	約 1.3 人/ha
高齢化率	23.8%
※人口・世帯数：平成 27 年度国勢調査、世帯数は総世帯数 ※人口密度：地域の居住人口/地域面積により目安として算出 (面積は可住地面積ではない)	



伊尾木、下山、川北甲地域は、安芸平野の南東部に位置します。東北部は東川地域に接し、西部は安芸川を境に安芸町地域及び土居・僧津、井ノ口、川北乙地域に接します。また、南部は海岸に接し、地域中央部には伊尾木川が流下しています。

地域の人口は 3,825 人であり、6 地域の中で 3 番目に多く、市全体の約 21.8%を占めます。高齢化率は 6 地域の中で 2 番目に低く、23.8%です。(安芸市平均高齢化率 24.8%)

地域全域が都市計画区域外にあたり、農漁村集落が分布する地域です。地域には手結住吉県立自然公園・伊尾木洞の自然資源、大山岬公園、道の駅大山、伊尾木漁港石積堤等の観光交流資源が多く分布し、これらは広域交通網である国道 55 号及び土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線などによって隣接地域と結ばれています。

なお、平野部はほぼ全域が津波浸水想定 of 浸水深 2m 以上の区域であり、海岸部に迫る山地部には、多くの土砂災害危険箇所が分布しています。

【資源・長所】(平成 30 年度市民ワークショップより)

- 豊富な資源(魅力ある道の駅・伊尾木洞などの多様な観光地)
- 高い防災意識
- 地元で起業された企業が多い地域
- クリーンエネルギーに取り組む会社が立地

【住民から見た課題】(平成 30 年度市民ワークショップより)

- 観光地としての努力が不足(集客施設や安芸東 IC(仮称)などの整備を活かした観光地としての努力が必要)
- 防災対策が心配(平野部がほぼ津波浸水想定 of 区域)

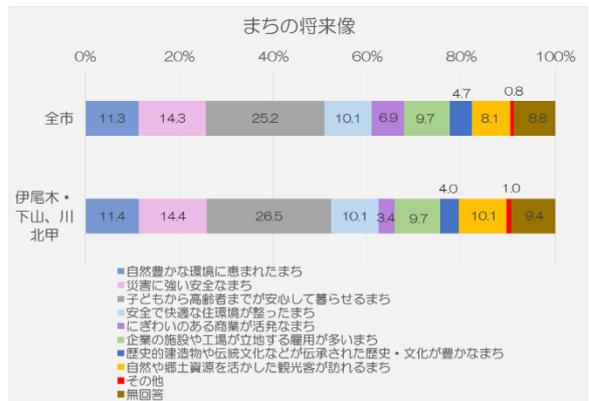
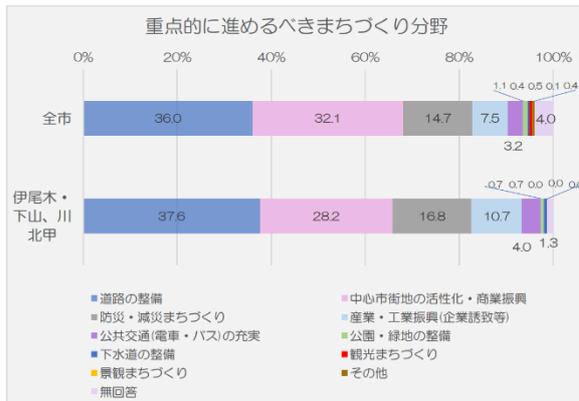
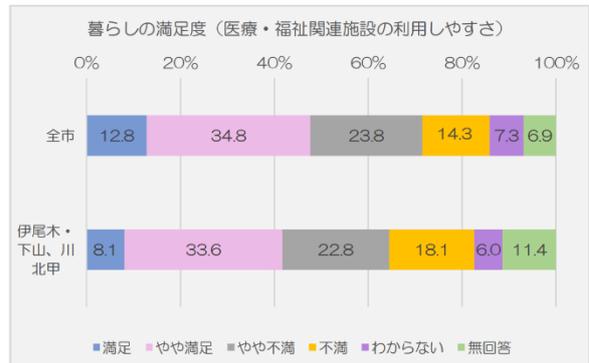
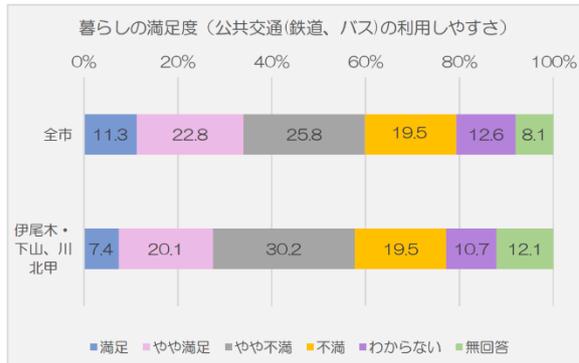
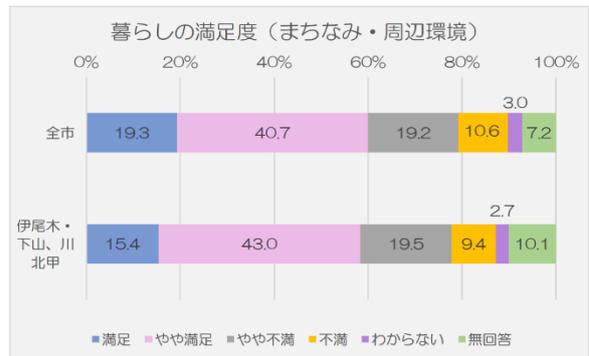
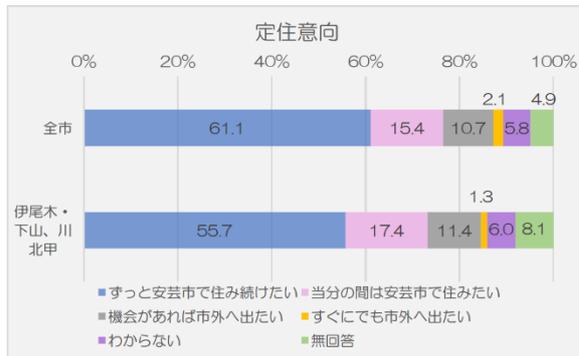
《安芸市都市計画マスタープラン策定のためのアンケート調査（平成30年度）》

【定住意向】定住意向（「住み続けたい」「当分の間は住みたい」）は73.1%であり、全市（76.5%）と比較して低くなっています。

【暮らしの満足度】まちなみ・周辺環境への「満足」「やや満足」は58.4%を占め、全市（60.0%）より、やや低くなっています。都市機能である医療・福祉関連施設はやや不満が高くなっています。

【重点的に進めるべき分野】「道路の整備」「中心市街地の活性化・商業振興」「防災・減災まちづくり」が重視されています。（各37.6、28.2%、16.8%）

【まちの将来像】「子どもから高齢者までが安心して暮らせるまち」「災害に強い安全なまち」「自然豊かな環境に恵まれたまち」が上位を占めます。（各26.5%、14.4%、11.4%）



〔2〕地域の主要課題と将来像

《地域の主要課題》

○地域高規格道路・安芸東IC（仮称）、中学校学校跡地の有効活用

・伊尾木、下山、川北甲地域では、地域高規格道路・安芸東IC（仮称）の整備、清水ケ丘中学校の統廃合などが進められます。今後は、これらの整備を活かしたまちづくりが必要となります。

○自然災害に脆弱な河川沿川と沿岸域の居住地と農地

・居住地の大部分は津波浸水想定区域（L2）2m以上にあたります。地震・津波から「命を守る」取組を検討することが必要となります。

○緊急時の通行等が困難な集落地内交通

・地域の交通は、国道55号を骨格として、暮らし、物流、観光などを支えています。集落地内の多くは狭い道路であり、日常生活の安全な通行や救急時の緊急車両の通行等に支障があります。今後は、暮らしや緊急時に安全な道路空間の形成が必要です。

○観光資源の魅力発揮が不十分

・地域には県や市を代表する多彩な観光交流資源が立地するものの、近年の道の駅大山の入込客数をみても年間約2万人弱であり、さらなる地域資源の魅力発揮が必要です。

《地域の将来像》

《地域の将来像》

誇りある歴史ロマンのふるさと

- ・新たに生まれる安芸東IC（仮称）、学校跡地等を最大限活用した魅力あふれる観光交流地域

伊尾木漁港石積堤



《地域づくりのテーマ》（平成30年度市民ワークショップより）

- ・世界の人が行ってみたい・地域の人々が世界に誇れるまち
- ・自給自足の世界一暮らしやすい里づくり
- ・幕末～昭和の夢にタイムトラベルができるまち（森林鉄道を復活）



[3] 地域づくりの方針と分野別方針

《地域づくりの方針》

○安芸東IC（仮称）や学校跡地を活用した地元産業の育成・起業の促進

- 地域高規格道路・安芸東IC（仮称）の整備促進を図るとともに、安芸東IC（仮称）周辺での無秩序な開発の抑制について検討します。
- 地域高規格道路・安芸東IC（仮称）との接続を促進します。これにより、周辺地や清水ヶ丘中学校跡地などの有効活用による地域活性化や観光の振興について検討し、地元産業のさらなる育成や起業の促進に取り組みます。

○地震・津波や自然災害からの暮らしの安全の確保・命を守る取組

- 避難場所、避難できる通路のさらなる充実や維持管理を図ります。
- 自主防災組織の強化などの災害への備えを充実させ、地震・津波から「命を守る」取組を推進します。

○集落地内の狭あい道路の改善

- 狭あい道路の拡幅や見通しの確保等の改善により、暮らしや緊急時の安全な道路空間を形成します。

○個性豊かな観光資源の魅力の発揮

- 観光地としての施設の充実を進め、多彩で個性的な観光資源の魅力増進を図ります。

《地域の実現方策のアイデア》（平成30年度市民ワークショップより）

- IC周辺の交通利便性の活用（将来、IC、駅、路線バスなど交通機関を生かせる場所）
- 地元の中小企業の育成・起業の促進
- 防災意識のさらなる醸成
- 魅力ある伊尾木の観光・文化の活用（伊尾木洞、天然記念物のシダ群落、伊尾木ゲストハウス、寅さん地蔵や太鼓、文化祭、いかだ流しなど地域の様々な資源やイベント）
- 魅力ある道の駅周辺資源の活用（地場産品、サンセット、グリーンフラッシュ、恋人の聖地、ツーリング・サイクリスト・お遍路さんの休憩場所など）
- 自然の活用（桜の名所、森林鉄道跡など）

《分野別方針》

【新たな地域づくり】

①地域高規格道路・安芸東IC（仮称）の整備促進

- 地域高規格道路・安芸東IC（仮称）の整備を促進し、地域の広域ネットワークを形成します。安芸東IC（仮称）と地域交通の骨格となる国道55号とのアクセス道路の検討により、地域との連結を強化します。これにより、生活利便性の向上とともに、地域観光や地元産業の広域的な発展を促進します。

②安芸東IC（仮称）周辺の無秩序な開発の抑制

- 安芸東IC（仮称）整備に伴う周辺農地の無秩序な開発行為等を抑制し、農地と調和した適切な土地利用について検討します。

③清水ケ丘中学校跡地の有効活用

- 学校統合によって生じる清水ケ丘中学校跡地は、地域活性化に向けた新たな拠点として、有効活用について検討します。

《主要施策》

○地域の広域ネットワーク整備

- 地域高規格道路・安芸東IC（仮称）の早期整備の促進
- 国道55号との地域へのアクセス道路の整備について検討

○安芸東IC（仮称）周辺の適切な土地利用

- 安芸東IC（仮称）周辺農地の保全について検討

○地域の新たな拠点の形成

- 清水ケ丘中学校跡地の有効活用について検討（地域コミュニティへの活用、観光の振興、地元産業のさらなる育成や起業の促進等）

【都市防災】

- 津波浸水想定のある区域にあたる集落では、狭あい道路の拡幅などによる避難できる通路の確保や津波避難場所の維持・管理を進めます。
- 安芸川や伊尾木川などの沿川地域や土砂災害等の危険性のある地域は、堤防強化の促進、総合治水等による内水氾濫への対応、土砂災害防止への取組などにより、自然災害に強い地域づくりを進めます。
- 自主防災組織の防災学習会などにより、防災意識の向上を図ります。

《主要施策》

○緊急時に避難できる通路の確保

- 狭あい道路の改良による高齢者、障がい者等の災害弱者のための避難できる通路の確保

○洪水対策

- 安芸川、伊尾木川などの治水対策、総合治水等の推進

○地域の防火・消防体制の強化（消防）

- 耐震性防火水槽や消火栓の計画的な配置と整備
- 消防団等の消火活動の拠点となる消防屯舎の整備の推進

○防災・減災意識の向上の強化

- 地域で防災訓練、自主防災活動の実施による防災意識の向上

○災害予防対策

- 土砂災害警戒区域等、土砂災害（かけ崩れ、土石流、地すべり）の危険箇所の把握、土砂災害対策（避難情報伝達体制の構築、建築規制等）などの推進

【土地利用】

農業環境の継続・充実を図ります。また、空き地・空き家などの有効な活用について検討し、地域産業の活性化や雇用の確保を図るとともに、定住者・移住者が安心して子育てや健康に暮らせる田園集落環境を確保します。

《主要施策》

○自然的土地利用における住居系ゾーン

- ・既存集落の住環境の充実としての多世代居住などのゆとりある居住環境の形成
- ・駅、公民館、集会施設等周辺への生活利便施設の維持、集約
- ・起業への支援、空き地・空き家対策の検討

○農業系ゾーン

- ・農業生産基盤の維持・充実
- ・漁港機能の維持・充実

○自然環境系ゾーン

- ・水源涵養としての森林の保全

【都市施設等】

①都市交通

- ・集落内の狭あい道路の改良、交通安全対策を進めます。

《主要施策》

○狭あい道路の改良

- ・渋滞緩和、安全のための拡幅改良

○人にやさしい道路づくり

- ・集落内の生活道路・農道の安全対策の充実、適所へのユニバーサルデザインの導入
- ・交差点や通学路等への外灯やカーブミラーの整備等の安全対策

②生活環境

- ・上水道などのインフラ系公共施設について、計画的な更新や適正な維持管理を進め、将来にわたり持続可能な公共サービスを提供します。

《主要施策》

○上水道の計画的更新と適正な維持管理

- ・上水道の計画的更新
- ・水道施設の長寿命化等の対策及び適切な維持管理を推進

○供給処理施設の維持管理

- ・安芸市一般廃棄物最終処分場、杜の聖苑（安芸市火葬場）の適切な維持管理

○環境保全対策の推進

- ・省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入として電気自動車、低燃費車の推進
- ・環境教育として広報の推進や社会見学等の場の活用
- ・ごみ減量化・資源化、不法投棄の防止などの啓発活動の推進、市民・地域との連携による環境美化の推進

③公園・緑地

- ・地域を取り巻く山地・森林、川などの自然環境や観光地などの身近な緑の保全・活用、並びに防災や環境面でも重要な役割を持つ緑としての農地の保全を図ります。

《主要施策》

○自然環境の保全

- ・地域を縦断する安芸川、伊尾木川などの河川、沿岸域の山地等の自然環境の保全
- ・安芸川、伊尾木川などの多自然川づくりの促進
- ・河川の水質や生態系の保全とともに親水空間としての整備の促進
- ・緑の骨格としての農地の保全

○自然公園の保護・保全

- ・手結住吉県立自然公園である伊尾木洞のシダ群落、竜王池（東山森林公園／生活環境保全林）、大山岬一帯の海岸線の保護・保全

○公園・緑地の管理

- ・大山岬公園などの適正な維持管理の推進

○市民、事業者との協働による公共施設や民有地内における緑化の推進

- ・公民館や集会所などの身近な活動の場などの緑化の推進
- ・市民意識の向上に向けた緑に関する情報の提供、緑化関連イベントの実施等の推進

④農漁村景観・観光

- ・農地や漁港と集落の調和する景観形成を進めます。
- ・観光地の建築物・工作物・屋外広告物等の適正な誘導により、地域の良好な景観づくりを引き続き進めます。

《主要施策》

○漁港景観・田園景観の形成

- ・伊尾木漁港石積堤（「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」水産庁）などの歴史的景観や文化的景観、山裾に広がる農地景観などのふるさと景観の保全

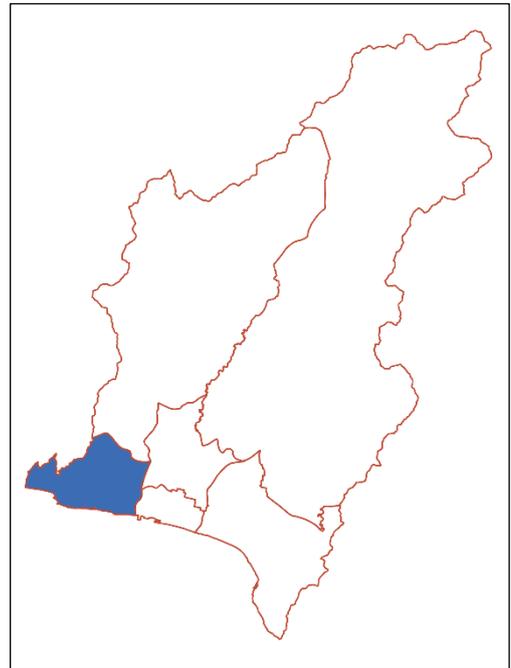
○観光交流のための環境整備

- ・伊尾木洞、自然公園、大山岬公園等の観光交流拠点の保全及び利用促進
- ・看板・サインの充実等による誘導しやすく、立ち寄りやすい環境整備
- ・農業、漁業を活かした体験型・交流型観光の推進

5.5 穴内、赤野地域

〔1〕地域の概要

地域面積	約 1,433ha（図上計測）
人口	1,891 人
世帯数	691 世帯
人口密度	約 1.3 人/ha
高齢化率	28.2%
※人口・世帯数：平成 27 年度国勢調査、世帯数は総世帯数 ※人口密度：地域の居住人口/地域面積により目安として算出 (面積は可住地面積ではない)	



穴内、赤野地域は、安芸市の南西部に位置します。東部は安芸町地域、土居・僧津、井ノ口、川北乙地域、西部は隣村の芸西村に接し、南部は海岸、北部は畑山・柄ノ木・尾川地域に接します。

穴内、赤野地域の人口は 1,891 人であり、6 地域の中の 4 番目にあたり、市全体の約 10.8%を占めます。高齢化率は比較的高く、28.2%です。(安芸市平均高齢化率 24.8%)

地域全域は安芸市都市計画区域外にあたる農漁村地域です。集落は東西に延びる沿岸の平地部から一部山間部に分布し、沿岸域には土佐くろしお鉄道、国道 55 号が横断します。地域には、太平洋を望める八流古戦場跡、赤野休憩所や日本酒の蔵元などがあり、海岸部には穴内漁港、赤野漁港が位置します。

なお、穴内、赤野地域の沿岸部はほぼ全域が津波浸水想定浸水深 2m 以上の区域であり、海岸部に迫る山地部には、多くの土砂災害危険箇所が分布しています。

【資源・長所】(平成 30 年度市民ワークショップより)

- ・豊かな自然・海岸景観(赤野の海の景色)
- ・特徴ある交通施設(自転車道や駅ごとにキャラクターのある土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線が魅力)
- ・良くなった農業環境(ほ場整備が完了し、水が確保)
- ・自慢の食(地酒の酒造会社が 2 軒)

【住民から見た課題】(平成 30 年度市民ワークショップより)

- ・防災対策への不安(避難地の山は高齢者にとって大変、避難ビルの周知が不十分、避難タワーに屋根や壁やトイレがなく冬つらいなど)
- ・地域の魅力である海が活かされていない(遊泳禁止で遊べない)
- ・職場への不満(若い人の働く場所が少ない)

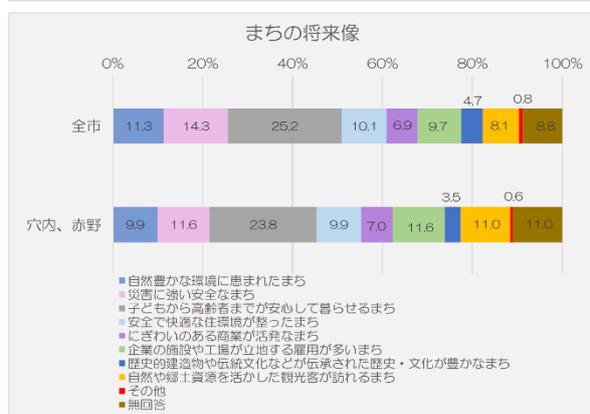
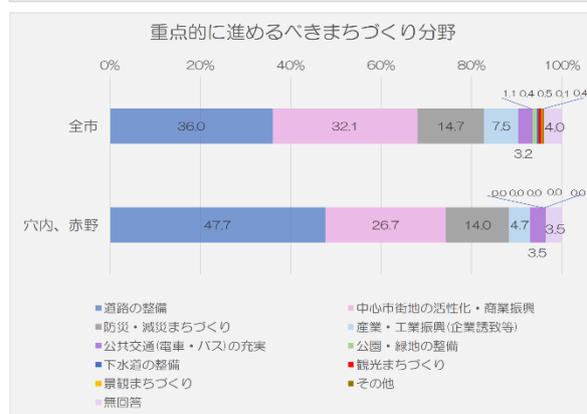
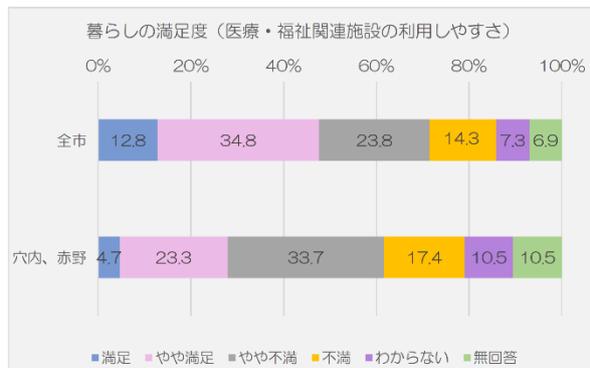
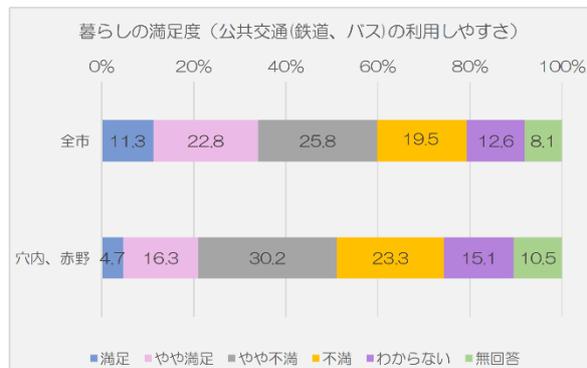
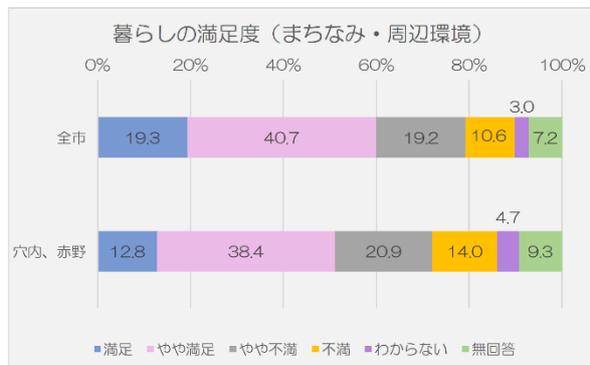
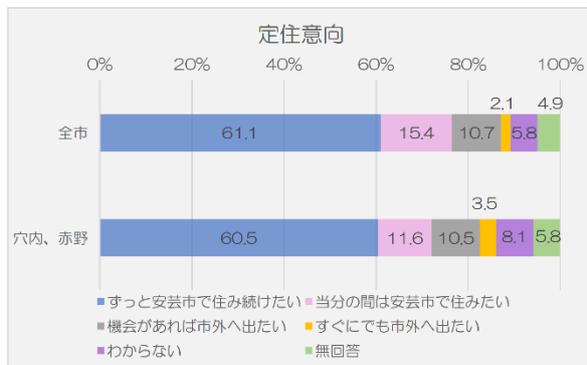
《安芸市都市計画マスタープラン策定のためのアンケート調査（平成30年度）》

【定住意向】定住意向（「住み続けたい」「当分の間は住みたい」）は、72.1%であり、全市（76.5%）より、低くなっています。

【暮らしの満足度】まちなみ・周辺環境への満足度（「満足」「やや満足」）は51.2%を占め、全市（60.0%）より低くなっています。特に、公共交通は全市（34.1%）に対して著しく低く、21.0%となっています。また、医療・福祉関連施設も28.0%であり、全市（47.6%）に対して低くなっています。

【重点的に進めるべき分野】「道路の整備」が半数近くを占めています。次いで「中心市街地の活性化・商業振興」「防災・減災まちづくり」となっています。（各47.7%、26.7%、14.0%）

【まちの将来像】「子どもから高齢者までが安心して暮らせるまち」が突出しています。次いで「災害に強い安全なまち」「企業の施設や工場が立地する雇用が多いまち」が上位を占めます。（各23.8%、11.6%、11.6%）



〔2〕地域の主要課題と将来像

《地域の主要課題》

○高規格道路・安芸西IC（仮称）整備への対応

- ・穴内、赤野地域では、高規格道路・安芸西IC（仮称）の整備が進められます。安芸西IC（仮称）周辺の無秩序な土地利用への対応が必要となります。

○自然災害に脆弱な沿岸域の居住地及び農地

- ・沿岸域の居住地や多くの農地は津波浸水想定区域（L2）2m以上にあたります。地震・津波から「命を守る」取組を検討することが必要となります。

○中山間部の不便な交通環境

- ・地域の交通は、国道55号を骨格として、暮らし、物流、観光などを支えています。集落内の多くは狭い道路であり、日常生活の安全な通行や救急時の緊急車両の通行等に支障があります。安全に国道55号へと到達できる交通網の整備が必要です。

○沿道からの眺望機能の未発揮

- ・地域を横断する国道55号は沿岸域の眺望が優れるドライブコースであるものの、通過点となっており、眺望地点として十分に活かされていません。周知や休憩場所等の充実が必要です。

《地域の将来像》

《地域の将来像》

美しい海と山と暮らしのふるさと

- ・海と山の美しい景観とともにある
安心して暮らせるふるさと

赤野の海岸の風景



《地域づくりのテーマ》（平成30年度市民ワークショップより）

- ・人を大切にする安全なまち（「いいまちだね」と言われるまち、海に近いため、安全なまち）
- ・桜並木から海を眺めるコントラストが素晴らしいまち（桜並木、きれいな海）



[3] 地域づくりの方針と分野別方針

《地域づくりの方針》

○高規格道路・安芸西IC（仮称）の整備促進

- ・高規格道路・安芸西IC（仮称）の整備促進を図るとともに、安芸西IC（仮称）周辺での無秩序な開発の抑制について検討します。

○地震・津波や自然災害からの暮らしの安全の確保・命を守る取組

- ・避難場所、避難できる通路のさらなる充実や維持管理を図ります。
- ・自主防災組織の強化などの災害への備えを充実させ、地震・津波から「命を守る」取組を推進します。

○市街地への連携強化により、利便性が高く活力ある地域を形成

- ・高規格道路・安芸西IC（仮称）と国道55号のスムーズな接続を図ります。これにより、生活利便性の向上を図るとともに、地元企業の活性化を促進します。

○集落地内の安全な交通環境の確保

- ・中山間部における狭あい道路の適所への拡幅や安全対策により、安全に国道55号へと到達できる交通網を整備します。

○沿道からの眺望景観の活用

- ・海や山などの景観を楽しめる休憩場所の整備や道路景観の修景整備を図り、沿岸のドライブコースを形成します。

《地域の実現方策のアイデア》（平成30年度市民ワークショップより）

- ・自然を生かしたまちづくり
- ・空き家対策（チャレンジショップ等としての活用、空き家を住めるようにして活用）
- ・教育・福祉の充実（放課後デイがない）
- ・高齢者に配慮した防災・避難のまちづくり（山へ避難するときの手すりの設置、避難タワーの整備、防災マップを定着させる広報活動の強化）
- ・自転車道を整備・活用する（サイクリングロードの整備）
- ・高速道路・駅を活用した新たな拠点づくり（空港・安芸市間へのサービスエリアの整備、バス路線の整備、ICの安全対策、ICの個性ある名称づけ）
- ・海辺の景観をアピールする（赤野休憩所のイルミネーション、キャッチフレーズなど）

《分野別方針》

【新たな地域づくり】

①高規格道路・安芸西IC（仮称）の整備促進

- ・高規格道路・安芸西IC（仮称）の整備を促進し、地域の広域ネットワークを形成します。安芸西IC（仮称）と地域交通の骨格となる国道55号とのアクセス道路について検討し、地域との連結を強化します。これにより、生活利便性の向上とともに、地元産業の広域的な発展を促進します。

②安芸西IC（仮称）周辺の無秩序な開発の抑制

- ・安芸西IC（仮称）整備に伴う周辺農地の無秩序な開発行為等を抑制し、農地と調和した適切な土地利用について検討します。

《主要施策》

○地域の広域ネットワーク整備

- ・高規格道路・安芸西IC（仮称）の早期整備の促進
- ・国道55号との地域へのアクセス道路の検討

○安芸西IC（仮称）周辺の適切な土地利用

- ・安芸西IC（仮称）周辺農地の保全の検討

【都市防災】

- ・沿岸域のほぼ全域が津波浸水想定区域にあたります。避難できる通路の確保や津波避難場所の維持・管理などのさらなる充実を進めます。
- ・土砂災害等の危険性のある地域は、土砂災害防止への取組などにより、自然災害に強い地域づくりを進めます。
- ・自主防災組織の防災学習会などにより、防災意識の向上を図ります。

《主要施策》

○緊急時に避難できる通路の確保

- ・狭あい道路の改良による高齢者、障がい者等の災害弱者のための避難できる通路の確保

○地域の防火・消防体制の強化（消防）

- ・耐震性防火水槽や消火栓の計画的な配置と整備
- ・消防団等の消火活動の拠点となる消防屯舎の整備の推進

○防災・減災意識の向上の強化

- ・地域で防災訓練、自主防災活動の実施による防災意識の向上

○災害予防対策

- ・土砂災害警戒区域等、土砂災害（がけ崩れ、土石流、地すべり）の危険箇所の把握、土砂災害対策（避難情報伝達体制の構築、建築規制等）などの推進

【土地利用】

農業環境の継続・充実を図ります。また、空き地・空き家などの有効な活用について検討し、地域産業の活性化や雇用の確保を図るとともに、定住者・移住者が安心して子育てや健康に暮らせる田園集落環境を確保します。

《主要施策》

○自然的土地利用における住居系ゾーン

- ・既存集落の住環境の充実としての多世代居住などのゆとりある居住環境の形成
- ・駅、公民館、集会施設等周辺への生活利便施設の維持、集約
- ・起業への支援、空き地・空き家対策の検討

○農業系ゾーン

- ・農業生産基盤の維持・充実
- ・漁港機能の維持・充実

○自然環境系ゾーン

- ・水源涵養としての森林の保全

【都市施設等】

①都市交通

- ・集落内の狭あい道路の改良や交通安全対策を進めます。

《主要施策》

○狭あい道路の改良

- ・渋滞緩和、安全のための拡幅改良

○人にやさしい道路づくり

- ・集落内の生活道路・農道の安全対策の充実、適所へのユニバーサルデザインの導入
- ・交差点や通学路等への外灯やカーブミラーの整備等の安全対策

②生活環境

- ・上水道などのインフラ系公共施設について、計画的な更新や適正な維持管理を進め、将来にわたり持続可能な公共サービスを提供します。

《主要施策》

○上水道の計画的更新と適正な維持管理

- ・上水道の計画的更新
- ・水道施設の長寿命化等の対策及び適切な維持管理を推進

○環境保全対策の推進

- ・省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入として電気自動車、低燃費車の推進等
- ・環境教育として広報の推進や社会見学等の場の活用
- ・ごみ減量化・資源化、不法投棄の防止などの啓発活動の推進、市民・地域との連携による環境美化の推進

③公園・緑地

- ・地域を取り巻く山地・森林、川などの自然環境や観光地などの身近な緑の保全・活用、並びに防災や環境面でも重要な役割を持つ緑としての農地の保全を図ります。

《主要施策》

○自然環境の保全

- ・地域を流下する穴内川、赤野川などの河川や山地等の自然環境の保全
- ・穴内漁港付近の海岸域の養浜の回復等への取組の推進

○市民、事業者との協働による公共施設や民有地内における緑化の推進

- ・公民館や集会所などの身近な活動の場などの緑化の推進
- ・市民意識の向上に向けた緑に関する情報の提供、緑化関連イベントの実施等の推進

④農漁村景観・観光

- ・農地や漁港と集落の調和する景観形成を進めます。
- ・眺望地点への休憩施設等の整備や道路修景を進め、地域の良好な観光スポットを形成します。

《主要施策》

○漁港景観・田園景観の形成

- ・穴内漁港や赤野漁港などの漁港景観や、山裾に広がる田園景観などのふるさと景観の保全

○眺望地点の保全

- ・太平洋を一望できる八流古戦場跡の保全
- ・眺望のための休憩所やドライブコースとしての眺望スポットの検討
- ・四国のみち（四国自然歩道）・自転車道の維持管理、充実整備

[4] 地域づくりの方針図

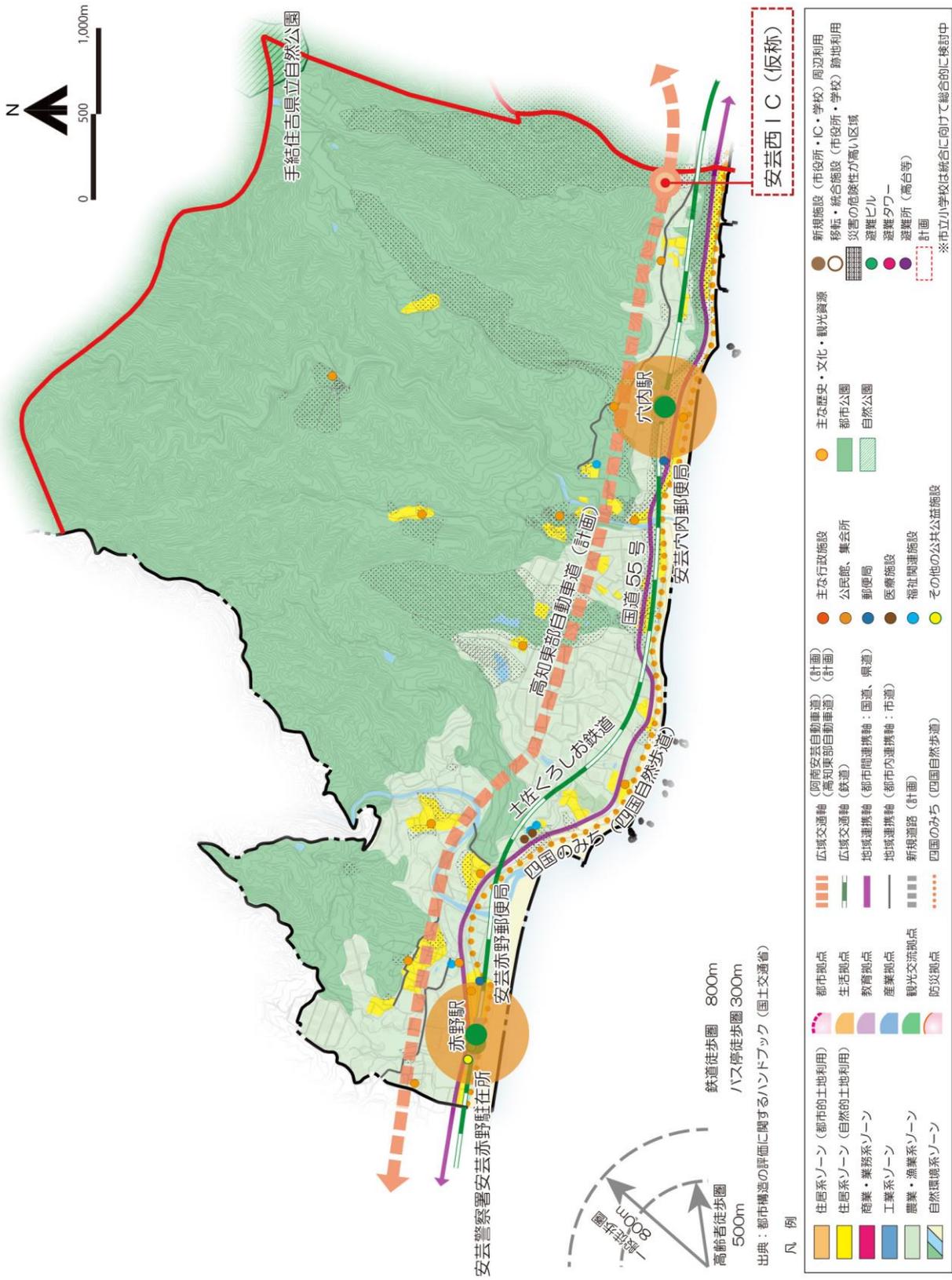
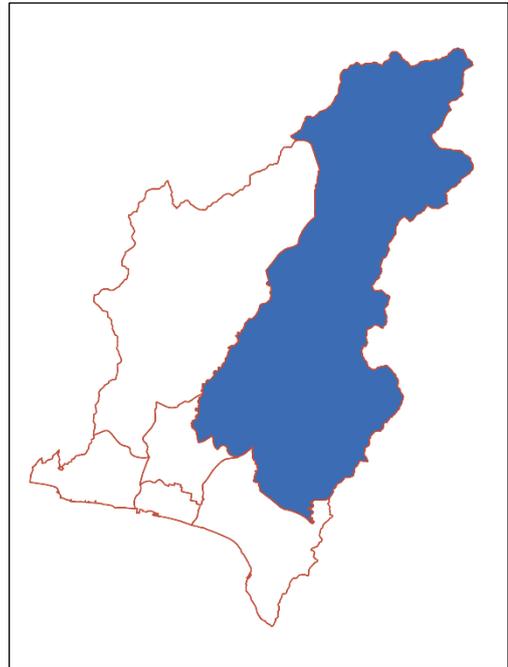


図 5-5 地域づくりの方針図(六内、赤野地域)

5.6 東川地域

[1] 地域の概要

地域面積	約 16,136ha (図上計測)
人口	259 人
世帯数	147 世帯
人口密度	約 0.02 人/ha
高齢化率	37.8%
※人口・世帯数：平成 27 年度国勢調査、世帯数は総世帯数 ※人口密度：地域の居住人口/地域面積により目安として算出 (面積は可住地面積ではない)	



東川地域は、安芸市の北東部に位置します。西部は畑山・栃ノ木・尾川地域、南部は土居・僧津、井ノ口、川北乙地域、伊尾木、下山、川北甲地域となり、東部は安田町、馬路村、北部は徳島県那賀町に接します。

東川地域の人口は 259 人であり、6 地域の中では、畑山・栃ノ木・尾川地域に次いで少なく、市全体の約

1.5%となります。高齢化率は、市で最も進んでおり、37.8%です。(安芸市平均高齢化率 24.8%)

地域全域が都市計画区域外にあたる中山間地域であり、ゆず栽培が盛んです。地域中央部には伊尾木川が流れ、沿川には県道大久保伊尾木線、市道古井別役線が通り、徳島県とを結んでいます。

なお、伊尾木川沿川には、多くの土砂災害危険箇所が分布しています。

【資源・長所】(平成 30 年度市民ワークショップより)

- すぐれた環境・伝統文化(環境の良さ、宝積寺、船岡神社、獅子舞などの歴史・伝統が魅力)
- 自慢の農業・食文化(農業は「ゆず」「品評会で関西一になった茶(茶畑)」「入河内大根」などが盛ん、おいしい飲食は「しし汁」「東川の田舎寿司」「安芸虎(酒)の原料米」「入河内の「吟の夢」など)
- 公民館が地域の交流・にぎわい拠点(「ゆず採り」「茶摘み体験」の交流、酒米研究会)

【住民から見た課題】(平成 30 年度市民ワークショップより)

- 人口減少で地域の存続が不安(後継者不足が深刻、水の管理や移動販売の継続、耕作放棄地の問題、寺社、伝統文化、墓所の維持が不安)
- 脆弱な公共交通(バスの本数が少なく、病院や市街地への行き来が困難)
- 山地の災害が心配(豪雨が多く、水害、土砂災害・落石や鳥獣被害等が心配)
- 小学校の休校、空き地・空き家の増加(公民館と農協が寄り合いの場、空き家・空き地は、土地権利者の不明な場所があり、土地流動が困難)

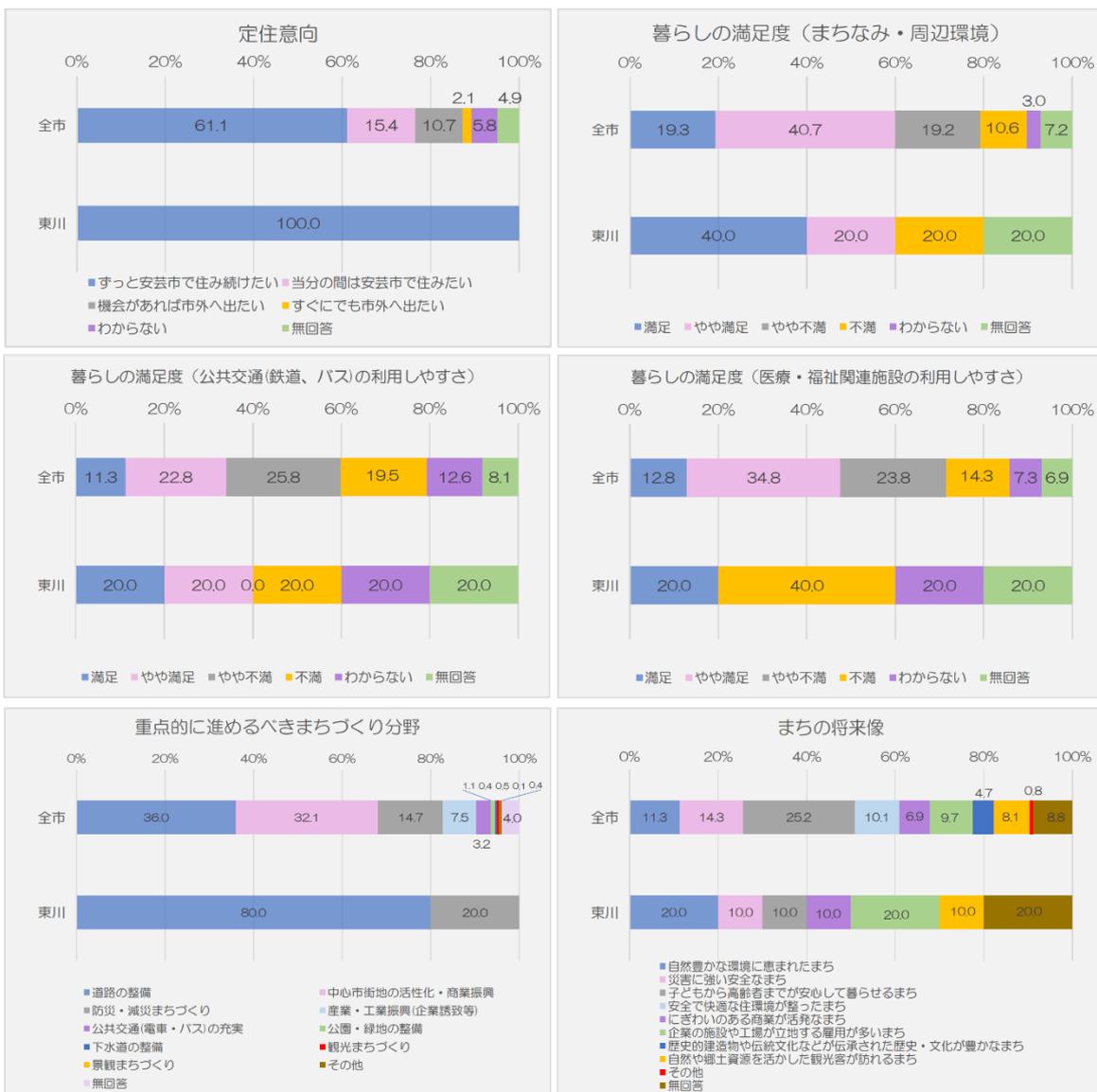
《安芸市都市計画マスタープラン策定のためのアンケート調査（平成30年度）》

【定住意向】 回答された方全てが地元での定住を希望されています。（定住意向「住み続けたい」「当分の間は住みたい」が100%、全市76.5%）

【暮らしの満足度】 まちなみ・周辺環境への満足度（「満足」「やや満足」）は60.0%であり、全市と同水準です。一方、医療・福祉関連施設への満足度は全市（47.7%）より低く、平均20%です。

【重点的に進めるべき分野】 「道路の整備」「防災・減災まちづくり」となっており、道路整備への要望が特に多くなっています。（各80.0%、20.0%）

【まちの将来像】 「自然豊かな環境に恵まれたまち」「企業の施設や工場が立地する雇用が多いまち」が上位を占めます。（各20.0%、20.0%）



〔2〕地域の主要課題と将来像

《地域の主要課題》

○集落、道路・林道等の基盤整備の遅れ

- ・集落に於いて老朽管きよの整備や飲料水の管理などが必要です。
- ・道路や林道は、落石や路側崩壊が頻発し、舗装の劣化や橋梁等の老朽化が進んでいます。

○山間の集落の多くに土砂災害危険箇所が分布

- ・奈比賀、入河内、黒瀬、大井、古井、別役などの居住地付近には土砂災害危険箇所が分布しており、土砂災害・落石、水害や鳥獣被害等の山地の災害が懸念されます。

○高齢化の進展、担い手不足により、地域の維持が困難

（生活環境の維持が困難）

- ・古井中学校、古井小学校、東川中学校、東川小学校、川北小学校奈比賀分校の休校による地域活力の低下、空き地・空き家の増加が顕著です。また、地域は無医地区であり、地域住民の医療機会の確保や高齢者の要介護状態を未然に防ぐことなどにより、地域の暮らしの維持が必要です。

（農林業の維持が困難）

- ・耕作放棄地の増大、森林の荒廃などにより、農林業の維持が困難になっています。

（地域間交流・地域文化の担い手不足）

- ・家族、地域の相互扶助機能等の地域コミュニティの弱体化が顕著となり、宝積寺、船岡神社などの寺社、獅子舞などの伝統文化、墓所等の維持など地域資源の活用や地域文化の担い手が不足しています。

《地域の将来像》

《地域の将来像》

東川・山の交流モデル地区

- ・交流体験・援農隊など地域内外の
みんなで作る東川ブランド

東川（入河内）のゆず畑



《地域づくりのテーマ》（平成30年度市民ワークショップより）

- ・人への思いと「和」を大切にされた地域づくり
- ・地域外の人とともに守る地域（地域外の方々とともに地域を守り、存続させる考え方が必要）
- ・地域全体ブランド化づくり（地域のブランド化で中山間のモデル地区を目指す）



[3] 地域づくりの方針と分野別方針

《地域づくりの方針》

○奈比賀、入河内などの生活拠点におけるインフラ系施設の維持・管理

- ・奈比賀、入河内などの生活拠点となる集落において、暮らしに必要な供給処理施設や生活利便施設などの維持管理を推進し、地域の拠点としての集落の維持を図ります。
- ・地域と安芸市中心部を結ぶ道路や林道の改良、橋梁の点検、長寿命化などについて、適正な維持管理を検討します。また、落石や路側崩壊、舗装の劣化や橋梁等の老朽化対策を行います。

○自然災害から集落を守る取組による安全・安心に暮らせる地域づくりの推進

- ・土砂災害の危険のある集落の安全対策について検討します。

○援農隊など、みんなで地域を支える体制の形成

- ・地域ぐるみで暮らしや高齢者等を支える体制づくりとして、「小さな拠点」の形成を検討します。

《地域の実現方策のアイデア》（平成30年度市民ワークショップより）

- ・公共交通の強化（交通手段の強化や時間短縮が大切、1.5車線化等の道路拡幅、トンネル、自動運転バスの導入検討）
- ・災害対策のハード整備が必要（水害、土砂災害・落石や鳥獣被害等などのハード整備が必要）
- ・地域の存続のためには、住民の健康が大切（体操の奨励、地域行事への参加、仕事の増加）
- ・暮らしを支える郵便、ガソリン、移動販売の維持
- ・農林業の復活と地場産品のPRが大切（耕作放棄地の有効活用や林業復活、大根、ゆず、茶、酒米などの地場産品等）
- ・援農学生、学生との連携、インバウンドなどで交流を拡大（学校を宿泊施設としてや移住者定着の場として有効利用、民泊で、援農学生や修学旅行、山と川の魅力を生かした外国人の受け入れ、県内大学生との交流の継続で、祭り、獅子舞などの地域の歴史・伝統の継承）

《分野別方針》

【新たな地域づくり】

① 「小さな拠点」としての充実による安心した暮らしの形成

- 「小さな拠点」としての充実を図り、生活拠点としての機能の集約化を図ります。

《主要施策》

○ 「小さな拠点」の形成への取組

- 既存集落等へ生活サービスを効率的に提供するとともに、地域の支え合い活動の推進に有効な制度として「小さな拠点」としての充実や活動について検討

○ 医療・福祉・教育機能の維持

- 地域ぐるみで高齢者を支える体制づくりとして、健康づくり、高齢者が生きがいをもって暮らせるまちづくり、在宅生活の支援と介護予防の推進について検討
- 公民館や集会所を活用した生涯学習の充実
- 公共交通手段としての「元気バス」の継続・確保

【都市防災】

- 土砂災害等の危険性のある地域は、土砂災害防止への取組などにより、自然災害に強い地域づくりを進めます。
- 自主防災組織の防災学習会などにより、防災意識の向上を図ります。

《主要施策》

○ 地域の防火・消防体制の強化（消防）

- 耐震性防火水槽や消火栓の計画的な配置と整備
- 消防団等の消火活動の拠点となる消防屯舎の整備の推進

○ 防災・減災意識の向上の強化

- 地域で防災訓練、自主防災活動の実施による防災意識の向上

○ 災害予防対策

- 土砂災害警戒区域等、土砂災害（がけ崩れ、土石流、地すべり）の危険箇所の把握、土砂災害対策（避難情報伝達体制の構築、建築規制等）などの推進

【土地利用】

農業環境の継続・充実を図ります。また、空き地・空き家などの有効な活用について検討し、地域産業の活性化や雇用の確保を図るとともに、定住者・移住者が安心して子育てや健康に暮らせる田園集落環境を確保します。

《主要施策》

○自然的土地利用における住居系ゾーン

- ・公民館、集会施設、バス停周辺等の生活拠点への生活利便施設の維持、集約
- ・空き地・空き家対策としての移住・定住のための住宅供給（Uターン者、就農者へのマッチング等）、移住者の受け入れ環境の整備

○農業・漁業系ゾーン

- ・農業生産基盤の維持・充実、鳥獣被害防除対策の推進
- ・担い手農家の受け入れに向けた耕作放棄地等の活用、農地集積の検討、営農体制の整備

○自然環境系ゾーン

- ・水源涵養としての森林の保全

○居住に適した土地利用の検討

- ・居住に適した土地利用条件の検討（居住に適さない、あるいは検討が必要な「土石流危険溪流」「土石流危険区域」「急傾斜地崩壊危険箇所」「地すべり危険箇所」「土砂災害警戒区域」「津波想定区域」等の地域の確認）

【都市施設等】

①中山間地域の交通

- ・中山間地域における道路や林道の改良、橋梁の点検、長寿命化などについて、適正な維持管理を検討します。

《主要施策》

○災害による道路の復旧

- ・落石や路側崩壊箇所の復旧

○老朽化等による道路等の補修

- ・舗装の劣化や橋梁等の老朽化への対応

○狭あい道路の改良

- ・地域と市街地を結ぶ道路における適所での1.5車線化の検討

②生活環境

- ・インフラの適正な維持管理を図り、農業環境と調和した生活拠点の維持・保全を図ります。

《主要施策》

○インフラの適正な維持管理

- ・合併浄化槽等の長寿命化等の対策及び適切な維持管理

○環境保全対策の推進

- ・省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入として電気自動車、低燃費車の推進等
- ・環境教育として広報の推進や社会見学等の場の活用
- ・ごみ減量化・資源化、不法投棄の防止などの啓発活動の推進、市民・地域との連携による環境美化の推進

③公園・緑地

- ・公民館、集会所などを地域活動やレクリエーションのために活用します。

《主要施策》

○地域活動の場の整備

- ・公民館、集会所などの地域活動やレクリエーションの場としての活用

○協働による公共施設や民有地内における緑化の推進

- ・公民館や集会所などの身近な活動の場などの緑化の推進
- ・市民意識の向上に向けた緑に関する情報の提供、緑化関連イベントの実施等の推進

④農村景観・観光

- ・農地や森林と集落の調和する景観形成を進めます。
- ・援農隊などの支援により、地域間交流を推進します。

《主要施策》

○農地・森林景観の形成

- ・集落をとりまく農地・森林景観などのふるさと景観の保全

○地域間交流・地域文化

- ・茶（茶畑）や入河内大根等の地域の特色ある特産品の活用やグリーンツーリズム、間伐体験、獅子舞やゆず採り、茶摘み体験などの体験プログラムの充実による地域間交流の広域化、体験観光の事業化



入河内大根

[4] 地域づくりの方針図

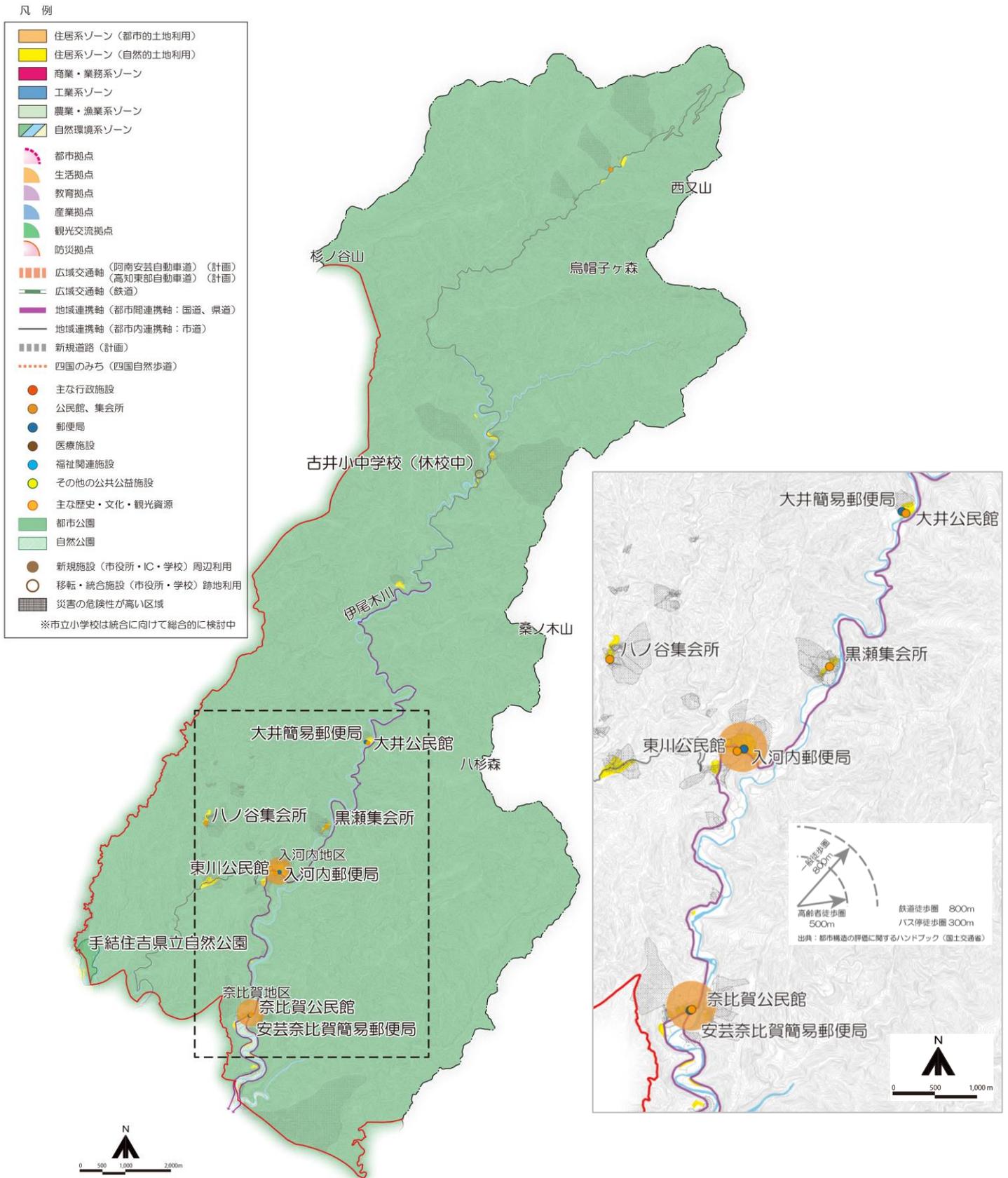
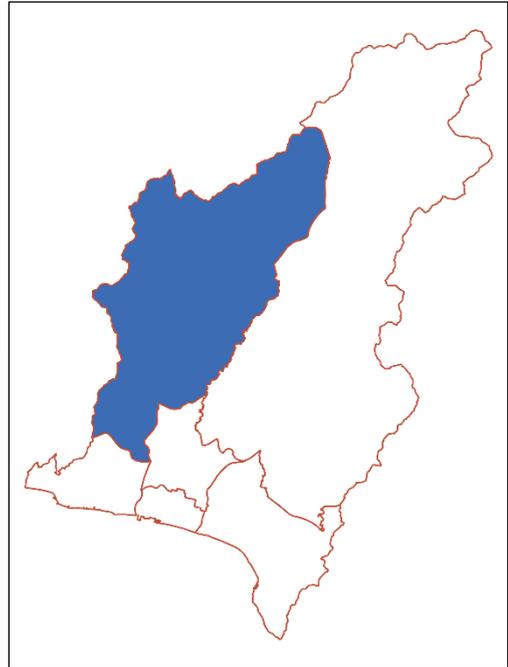


図 5-6 地域づくりの方針図（東川地域）

5.7 畑山・栃ノ木・尾川地域

〔1〕地域の概要

地域面積	約 9,372ha（図上計測）
人口	179 人
世帯数	93 世帯
人口密度	約 0.02 人/ha
高齢化率	29.6%
※人口・世帯数：平成 27 年度国勢調査、世帯数は総世帯数 ※人口密度：地域の居住人口/地域面積により目安として算出 （面積は可住地面積ではない）	



畑山・栃ノ木・尾川地域は、安芸市の北西部に位置します。東部は東川地域及び土居・僧津、井ノ口、川北乙地域、西部は香南市、芸西村、南部は穴内、赤野地域、北部は香美市に接します。

地域の人口は 179 人であり、6 地域の中で最も少なく、市全体の約 1.0%となっています。高齢化率は、29.6%であり、東川地域に次いで高い地域です。（安芸市平均高齢化率 24.8%）

地域全域が都市計画区域外にあたる中山間地域で、ゆず栽培が盛んです。地域中央部には安芸川が流れ、沿川には県道安芸物部線、県道畑山栃ノ木線が整備されています。

なお、安芸川沿川の畑山・栃ノ木・尾川には、土砂災害危険箇所が分布しています。

【資源・長所】（平成 30 年度市民ワークショップより）

- 人のつながりが深く、協力しあう地域柄
- 地域活動が豊富（公民館が活動拠点、活動は、モーニング（朝食）、クリスマス会、地区民運動会、バス旅行、鍋・焼肉などの宴会、夕涼み会、「山援隊」（協力隊）のコンニャクづくり、伝統行事など）
- 自然が自慢（山、川が身近で、空気が良い、川がきれい、水がきれい、静か、夜の散歩、虫の声、街灯がないので星がきれい、あゆ釣り、ホタルが楽しめる）
- 豊かな自然の恵み（魚、野菜、山菜（イタドリ、タケノコなど）などがとてもおいしく、ゆず、なすなどの基幹産業が地域に根付いている）

【住民から見た課題】（平成 30 年度市民ワークショップより）

- 個人の負担が大きくなる地域活動（若者が少なく、個人への負担が集中、老後の活動が不安）
- マイナス面もある自然の暮らし（鹿、猿の出没、一部釣り人のマナーが悪化）
- 暮らしの不安（水道がない、店がない、夜開いている店がない、交通が不便、携帯の通話地域は畑山公民館周辺のみ、郵便ポスト、公衆電話がない、犬のしつけが悪い）
- 災害への不安（豪雨などで道路などの災害が多く、畑が修復できない）
- 雇用の不足（耕作放棄地や空き家が増加、仕事や産業は地域外）

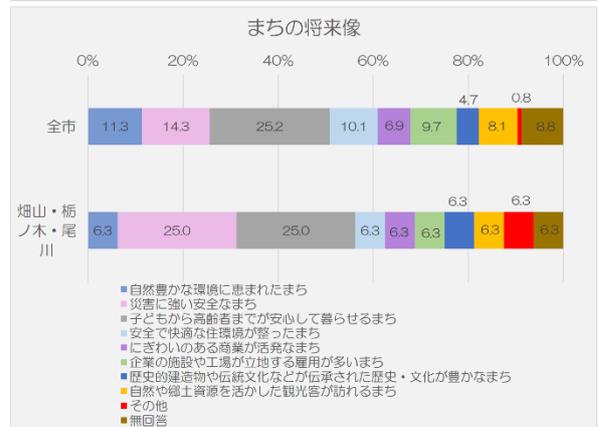
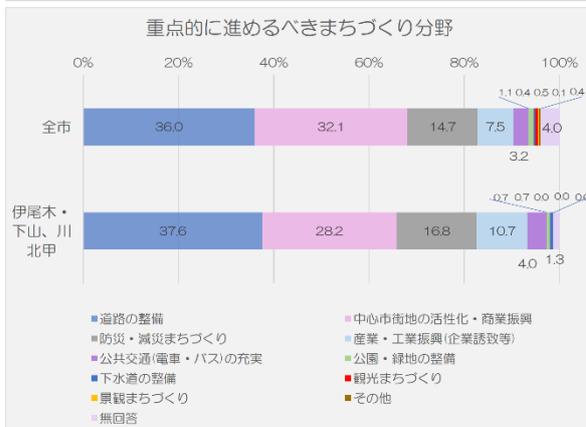
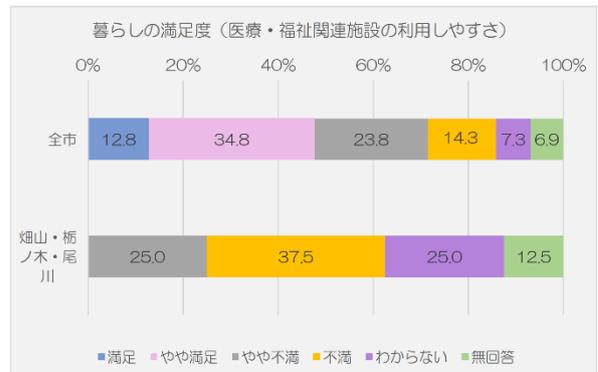
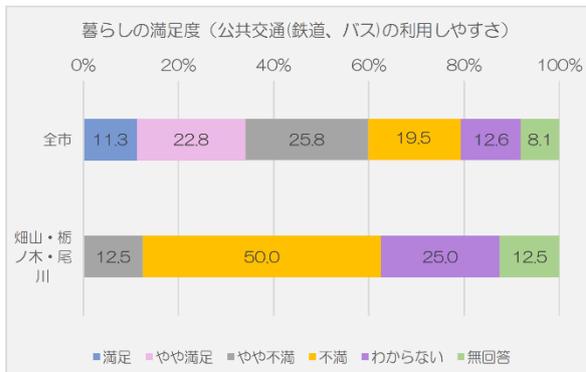
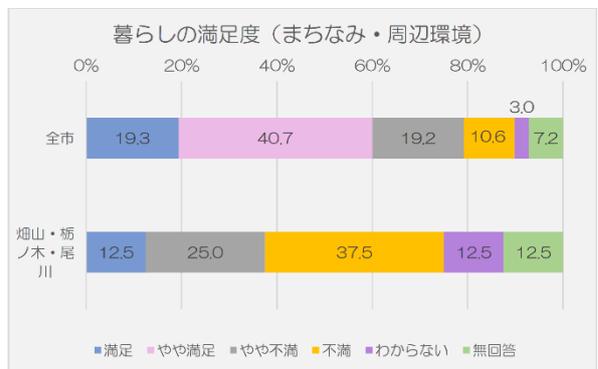
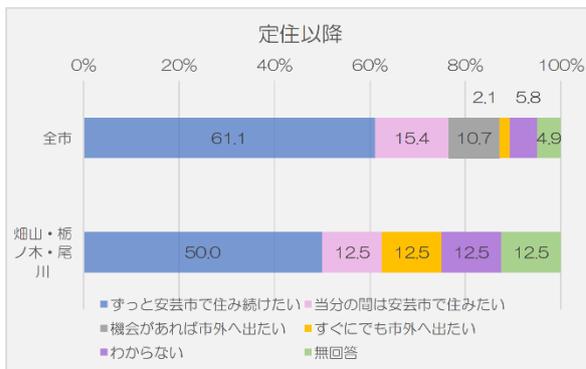
《安芸市都市計画マスタープラン策定のためのアンケート調査（平成30年度）》

【定住意向】定住意向（「住み続けたい」「当分の間は住みたい」）は62.5%であり、全市（76.5%）より低くなっています。

【暮らしの満足度】まちなみ・周辺環境への満足度（「満足」「やや満足」）は12.5%であり、全市（60.0%）に比べ、著しく低くなっています。特に、都市機能である公共交通は不満足（「やや不満」「不満」）が62.5%と高く、全市（45.3%）を超えています。医療・福祉関連施設も不満足（「やや不満」「不満」）が62.5%と高く、全市（38.1%）を超えています。

【重点的に進めるべき分野】「道路の整備」「防災・減災まちづくり」「公共交通（電車・バス）の充実」が重視されています。（各37.5%、25.0%、25.0%）

【まちの将来像】「災害に強い安全なまち」「子どもから高齢者までが安心して暮らせるまち」が上位を占めます。（各25.0%、25.0%）



〔2〕地域の主要課題と将来像

《地域の主要課題》

○集落、道路・林道等の基盤整備の遅れ

- ・集落に応じて老朽管きよの整備や飲料水の管理などが必要です。
- ・道路や林道は、落石や路側崩壊が頻発し、舗装の劣化や橋梁等の老朽化が進んでいます。

○山間の集落には土砂災害危険箇所が分布

- ・畑山・栃ノ木・尾川などの居住地付近には土砂災害危険箇所が分布しており、土砂災害・落石、水害や鳥獣被害等の山地の災害が懸念されます。

○高齢化の進展、担い手不足により、地域の維持が困難

（生活環境の維持が困難）

- ・上尾川中学校、上尾川小学校の休校のほか、空き地・空き家の増加が顕著です。また、地域は無医地区であり、地域住民の医療機会の確保や高齢者の要介護状態を未然に防ぐことなどにより、地域の暮らしの維持が必要です。

（農林業の維持が困難）

- ・耕作放棄地の増大、森林の荒廃などにより、農林業の維持が困難になっています。

（地域間交流・地域文化の担い手不足）

- ・家族、地域の相互扶助機能等の地域コミュニティの弱体化が顕著であり、地域活動の担い手が不足しています。

《地域の将来像》

《地域の将来像》

元気いっぱいのふるさと畑山・栃ノ木・尾川

・自然が自慢のふるさと畑山・栃ノ木・尾川

山援隊とともに暮らす山

栃ノ木公民館のイルミネーション



《地域づくりのテーマ》（平成30年度市民ワークショップより）

- ・弱みを強みにする逆転の発想で人材を育てる拠点となる地域（定住・移住を進めることが必要、勉強、研究、創作など世間と隔絶する環境のメリットを最大限活用）
- ・宝物がたくさん隠れている山・畑山づくり（美しい星空の下、人の思い合いがある地域）



[3] 地域づくりの方針と分野別方針

《地域づくりの方針》

○畑山・栃ノ木・尾川などの生活拠点におけるインフラ系施設の維持、管理

- ・畑山・栃ノ木・尾川などの生活拠点となる集落において、暮らしに必要な供給処理施設や生活利便施設などの維持管理を推進し、地域の拠点としての集落の維持を図ります。
- ・地域と安芸市中心部を結ぶ道路や林道の改良、橋梁の点検、長寿命化などについて、適正な維持管理を検討します。また、落石や路側崩壊、舗装の劣化や橋梁等の老朽化への対応が必要です。

○自然災害から集落を守る取組により、安全・安心に暮らせる地域づくりを推進

- ・土砂災害の危険のある集落の安全対策について検討します。

○山援隊と地域を支える「小さな拠点」の形成

- ・地域ぐるみで暮らしや高齢者等を支える体制づくりとして、「小さな拠点」の形成を検討します。

《地域の実現方策のアイデア》（平成30年度市民ワークショップより）

- ・空き家を活用したお試し住宅（移住PR+拠点）
- ・道路の整備が必要
- ・自然の活用・クリーンエネルギーの活用（外からの人が参加出来る自然を使った畑山～栃ノ木間のウォークラリー、山道整備によりツーデーウォークや散歩のルートづくり、あゆ釣り、川で泳ぐなどの自然の活用、尾根を活用した風力発電などのクリーンエネルギー発電の推進）
- ・耕作放棄地を使いたい人に貸せる仕組みづくり
- ・仕事のマッチングシステムの構築
- ・交流・イベントでにぎわいを創出（イルミネーション、水車などの人手がいない設置型の施設、家族がゆっくり遊べる所、地域の若い人が交流出来るイベント、ビアガーデン、マルシェ、日曜市、青空市、フリマなどの交流の場、国虎没後450年を記念して地元縁のある有名人の招致や大正琴を学ぶ場の復活、交流の場への移動販売カフェ等の誘致）
- ・弱みを強みに変える発想・アイデア（安芸市の英語圏化、電波の届かない地域特性を活用、公民館、集会所、市民会館、図書館、商工会館などのスペースの活用により、都会と隔絶した場所での勉強環境の提供など）

《分野別方針》

【新たな地域づくり】

- ①「小さな拠点」としての取組による安心した暮らしの形成
- ・「小さな拠点」等の検討を進め、生活拠点の機能の集約化を図ります。

《主要施策》

○「小さな拠点」形成への取組について検討

- ・既存集落等へ生活サービスを効率的に提供するとともに、地域の支え合い活動の推進に有効な制度として「小さな拠点」の形成や活動について検討

○医療・福祉・教育機能の維持

- ・地域ぐるみで高齢者を支える体制づくりとして、健康づくり、高齢者が生きがいをもって暮らせるまちづくり、在宅生活の支援と介護予防の推進について検討
- ・公民館や集会所を活用した生涯学習の充実
- ・公共交通手段としての「元気バス」の継続・確保

【都市防災】

- ・土砂災害等の危険性のある地域は、土砂災害防止への取組などにより、自然災害に強い地域づくりを進めます。
- ・自主防災組織の防災学習会などにより、防災意識の向上を図ります。

《主要施策》

○地域の防火・消防体制の強化（消防）

- ・耐震性防火水槽や消火栓の計画的な配置と整備
- ・消防団等の消火活動の拠点となる消防屯舎の整備の推進

○防災・減災意識の向上の強化

- ・地域で防災訓練、自主防災活動の実施による防災意識の向上

○災害予防対策

- ・土砂災害警戒区域等、土砂災害（がけ崩れ、土石流、地すべり）の危険箇所の把握、土砂災害対策（避難情報伝達体制の構築、建築規制等）などの推進

【土地利用】

農業環境の継続・充実を図ります。また、空き地・空き家などの有効な活用について検討し、地域産業の活性化や雇用の確保を図るとともに、定住者・移住者が安心して子育てや健康に暮らせる田園集落環境を確保します。

○自然的土地利用における住居系ゾーン

- ・ 公民館、集会施設、バス停周辺等の生活拠点への生活利便施設の維持、集約
- ・ 空き地・空き家対策として、Uターン者、就農者へのマッチング等による移住・定住のための住宅の供給、移住者の受け入れ環境の整備

○農業・漁業系ゾーン

- ・ 農業生産基盤の維持・充実、鳥獣被害防除対策の推進
- ・ 担い手農家の受け入れに向けた耕作放棄地等の活用、農地集積の検討、営農体制の整備

○自然環境系ゾーン

- ・ 水源涵養としての森林の保全

○居住に適した土地利用の検討

- ・ 居住に適した土地利用条件の検討（居住に適さない、あるいは検討が必要な「土石流危険渓流」「土石流危険区域」「急傾斜地崩壊危険箇所」「地すべり危険箇所」「土砂災害警戒区域」「津波想定区域」等の地域の確認）

【都市施設等】

①中山間地域の交通

- ・ 中山間地域における道路や林道の改良、橋梁の点検、長寿命化などについて、適正な維持管理を検討します。

《主要施策》

○災害による道路の復旧

- ・ 落石や路側崩壊箇所の復旧

○老朽化等による道路等の補修

- ・ 舗装の劣化や橋梁等の老朽化への対応

○狭あい道路の改良

- ・ 地域と市街地を結ぶ道路：適所での1.5車線化の検討

②生活環境

- ・ インフラの適正な維持管理を図り、農業環境と調和した生活拠点の維持・保全を図ります。

《主要施策》

○インフラの適正な維持管理

- ・ 合併浄化槽等の長寿命化等の対策及び適切な維持管理

○環境保全対策の推進

- ・ 省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入として電気自動車、低燃費車の推進等
- ・ 環境教育として広報の推進や社会見学等の場の活用
- ・ ごみ減量化・資源化、不法投棄の防止などの啓発活動の推進、市民・地域との連携による環境美化の推進

③公園・緑地

- ・公民館、集会所などを地域活動やレクリエーションのために活用します。

《主要施策》

○地域活動の場の整備

- ・公民館、集会所などの地域活動やレクリエーションの場としての活用

○協働による公共施設や民有地内における緑化の推進

- ・公民館や集会所などの身近な活動の場などの緑化の推進
- ・市民意識の向上に向けた緑に関する情報の提供、緑化関連イベントの実施等の推進

④農村景観・観光

- ・農地や森林と集落の調和する景観形成を進めます。
- ・援農隊などの支援により、地域間交流を推進します。

《主要施策》

○農地・森林景観の形成

- ・集落をとりまく農地・森林景観などのふるさと景観の保全

○地域間交流・地域文化

- ・山道のツーディウォーク、あゆ釣り、川泳ぎなどの自然とのふれあい、グリーンツーリズム、間伐体験など、地域独自の体験プログラムの充実による地域間交流の広域化、体験観光の事業化

[4] 地域づくりの方針^ア

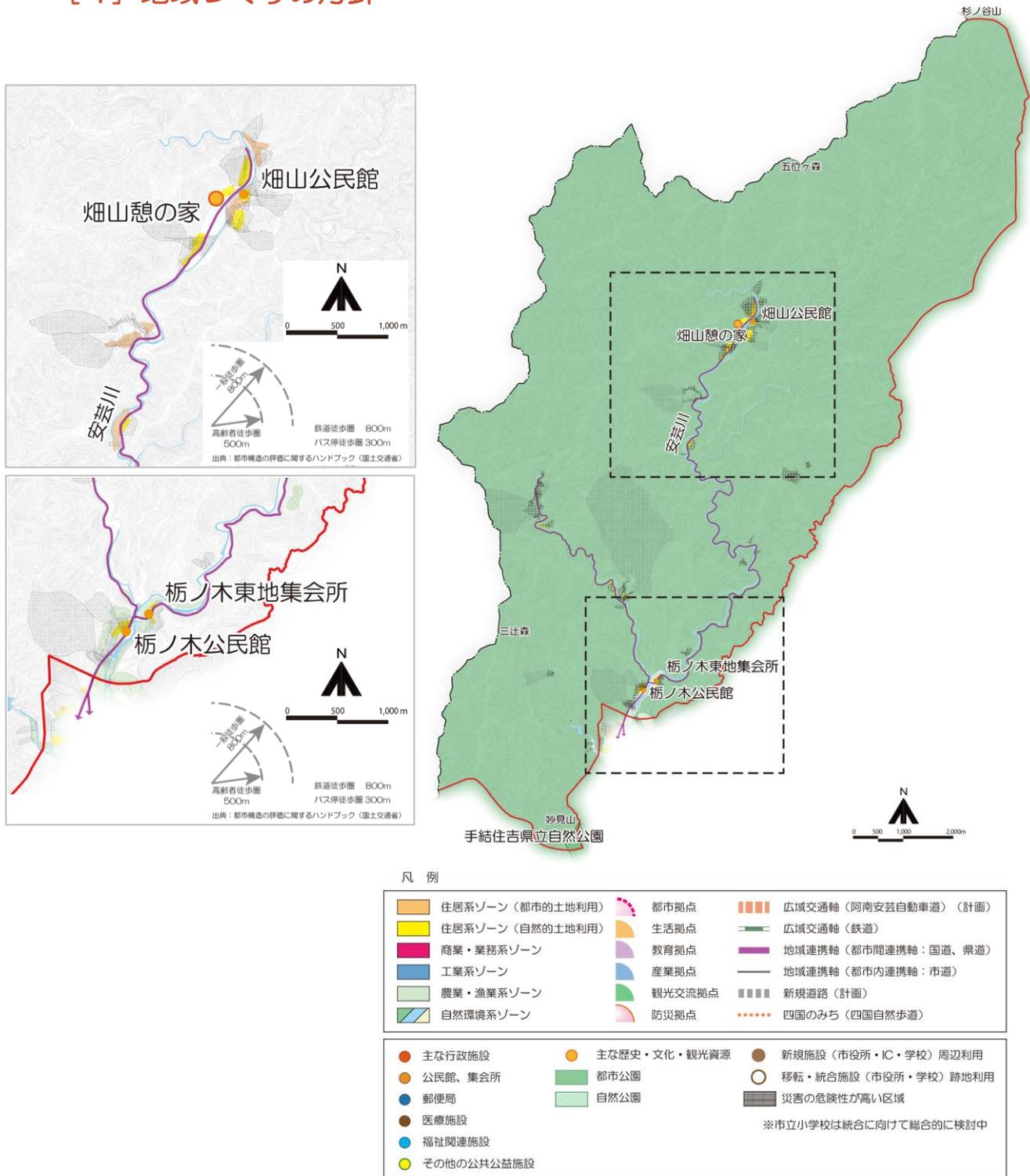


図 5-7 地域づくりの方針図（畑山・栃ノ木・尾川地域）